No.71
Aug. 23rd, 2021

NEWSLETTER
国際音楽資料情報協会日本支部

ISSN 2432-6135
(online)

International Association of Music Libraries, Archives and Documentation Centres Japanese Branch

【特集】第 68, 69 回研究例会・2021 年支部総会報告

【目次】

○第 68 回研究例会
・新しい規則に基づく音楽資料目録データ概観
（鳥海恵司） p.1
・第 68 回例会傍聴記（柳澤健太郎） p.17
○第 69 回研究例会
・写本から印刷楽譜へ：
ジョスカン・デ・プレの楽譜史料をめぐって
（宮﨑晴代） p.20
・第 69 回例会傍聴記（野川夢美） p.25
○2021 年支部総会報告 p.28
○事務局だより p.33

新しい規則に基づく音楽資料目録データ概観

- スタンドアロン型からネットワーク型へ –

鳥海恵司

【プレリュード：序にかえて】

本稿 は 2021 年 2 月 7 日に web 上で開催された例会での発表を再構成したダイジェスト版である。発表に際して用意された「お題」は「音楽資料目録データの作成から見た音楽資料目録と音楽図書館」であったが、この「お題」に即した内容は発表者には力不足と考え、上記のようなタイトルに変えさせていただいた。

発表内容は、2018 年 12 月に出版され、2021 年から国立国会図書館で適用が開始された、日本目録規則 2018 年版（NCR2018）を始めとした post FRBR（Functional Requirements for Bibliographic Records；書誌レコードの機能要件）世代の目録規則によって変わる目録情報を、５つの視点（エピソード）を通して説明を試みたもので、次のような構成になった。

エピソード①：
表現形の記述データと関係者（編曲者）データの実例
エピソード②：室内楽の標準的組み合わせ
エピソード③：リブレット/歌詞の多言語対応
エピソード④：
関連：資料に関するさまざまな関連--ベートーヴェンのフィデリオを例に
エピソード⑤：
図書館界の周辺に存在する関連データベースの参照

FRBR の洗礼を受けた RDA や NCR2018 などの新しい目録規則の下で生産される実際のメタデータ（著作・表現形とその創作者・寄与者など）を紹介し、古い世代の目録規則から生まれたデータとの違いを体感していただくことが主な目論見で、各エピソードの順番に特段の意味はない。

なお、当日の配布資料中の「(おまけ) 主題目録 （件名・トピックと形式・ジャンル)」は、音楽分野における、日本の図書館界に欠けている、または品質があまりよろしくない…という現状の主題目録に関する簡単なレポートである。

FRBR は、国際図書館連盟（IFLA）が、増大する目録作成コストの削減と目録簡略化のため、1992 年に研究グループを設置し、その研究結果として公開されたもので、全国書誌における最低限必要な書誌データの「要件」とは何か、という問題に関する答申が直接的な目的だった。ところが、その内容が公開されると、FRBR は「機能要

件」よりも「目録と目録作成のレファレンス・モデル」として普及して行く…という皮肉な結果をもたらした。2010 年、FRBR を基礎とした英語圏の国際目録規則「資源の記述とアクセス」（RDA）がリリースされ、2013 年以降、英語圏各国の共通目録規則として使用されている。RDA から遅れること 8 年、RDA 互換の日本目録規則 2018 年版が、日本図書館協会と国立国会図書館の共同事業として 2018 年 12 月に出版され、周回遅れながらも、日本でも FRBR ベースの目録時代に入った。

【エピソード①：
表現形の記述データと関係者（編曲者）データの実例】

最初のエピソードは、表現形 Expression を採りあげた。 図 1 は、目録の専門家には馴染みの FRBR 第 1 グループの実体と主要な関連で、これまでの古い規則では、図の下半分、体現形 Manifestation と 個別資料 Item を主に扱っていて、上半分の著作 Work と表現形 Expression は、体現形を記述する書誌データを検索するためのアクセスポイントの一種として捉えられていた。つまり、検索漏れ防止のための統一形を提供することが最大の使命で、その名も“Uniform title(s)=統一タイトル”だった。

体現形とは、目録作業で言うところの「目録対象資料」で、カタロガーの手元にあるのは一般的に大量生産された製品の 1 つ、つまり個別資料であるが、これを体現形の「コピーの 1 つ、つまり標本」とみなして目録データを作成する。これが体現形と個別資料を繋ぐ矢印の主な意味である。

上半分の著作と表現形であるが、創作者・クリエーターの頭の中、または意識やイメージ上にある著作は、何らかの方法・手段、例えば文字や音楽の場合は楽譜に変換して表現される。ここまでは、まだ物として具体化していない。これを特定の物体に固定したもの、つまり書いたり、印刷したものが体現形で、ここで初めて、他人の利用が可能になる。この図で言う表現形は著作が世に出るためには欠かせないプロセスで、言わば自然発生的な表現形と考えることができる。

もう 1 つの表現形、つまり翻訳、編曲など、別の追加的創作要素が加わった結果の表現形があり、実際のデータを作成する場合には意識する必要がある。

エピソード①では、表現形の記述データと関係者（編曲者）データの実例を紹介した（図 2)。サンプルは、ムソルグスキーの《展覧会の絵》、もともとピアノ組曲で、フランス人のモーリス・ラヴェルがカラフルなオーケストレーションを施して有名になった作品である。

トッカータの目録データベースにあるオリジナル作品（著作）と編曲（表現形）の一覧を示した。最初にオリジナル、2 番目以降に編曲された版を並べてあり、それぞれの最後に書誌データでのリンク数と簡単な内訳を加えた。なお、表現形のアクセスポイントは、著作に対するアクセスポイントの末尾に表現形のタイプを示す用語（arranged...など）を追加して構築する。表現形であることの用語 “arranged” に、さらに限定語を追記するかどうかは任意事項で、加える場合は多くのケースで編曲者の名称が用いられている。

エピソードの最後にラヴェル編曲の展覧会の絵を記述した表現形データを紹介する。

最初は事実上の世界標準となっているアメリカ議会図書館と主に北米の大学図書館で共同管理しているデータベースの、表現形の記述データ（図 3)。この形は MARC21 と呼ばれる目録情報の格納方法の 1 つで、2709 という国際標準化機構（ISO）が制定した国際標準と、Z39.2 というアメリカの情報標準化機構が定めた国家標準に基づいている。データ内容を識別する方法としては、3 桁の「タグ」と呼ばれる数字（図 3 では左側の太い数字)、それとドル記号と 1 文字の英数字、これを「サブフィールド識別子」と呼び、この 2 つの組み合わせで「識別子」に続くデータの内容を定義している。網掛してあるタグ 100 が優先タイトルで、この形が書誌データの標目またはアクセスポイントとして使われる。5 個あるタグ 400 は、検索漏れを防ぐためにカタロガーが選択した、いわゆる参照形のアクセスポイント。タグ 100 の 2 行上にあるタグ 040/$e の網掛「rda」は、この表現形データが RDA のもとで作成されたことを示している。

次の図 4 は、同じ実体を Toccata MARC に格納したもので、この形の特徴的な点は、創作者（この作品では作曲者のムソルグスキー）の優先形アクセスポイントをタ

イトルと合成せずに、レコード間リンクで連結していることで、タグ 002 にリンク先のレコード ID がある。検索ソフトウェアは、この 002 のリンク先データとタグ A5A/K、E5A/K のタイトルとを一体と見なして処理する。蛍光ペンで強調してあるのは、FRBR が発端となって追加されることになった、著作や表現形の属性データ群で、この例では、音楽形式・編曲と編曲者、演奏手段、編曲者の特性 （フランス人男性)、編曲年、DDC の分類番号などがある。タグ CB0 には編曲者の記述データへのリンク、C22 には演奏手段データへのリンクが含まれる。

【エピソード②：室内楽の標準的組み合わせ】

エピソード 2 番目は、室内楽の標準的組み合わせである。古い世代の規則は、目録の物理的形態として加除式のカードを想定しており、面積の狭いカードに必要な情報を詰め込むため、略語を用いたり、同じ要素の記載数量を制限していた。統一タイトルでの演奏手段の原則 3 以内もその 1 つで、室内楽の標準的組み合わせは重要な柱だった。RDA などの新世代の規則では、目録カードをアウトプットの 1 つに想定することをやめ、その結果として略語の廃止、数の制限の撤廃などが行われている（図 5)。ただし、2010 年 6 月にリリースされた初版では、このコンセプトと矛盾する部分が残っており、演奏手段の数量制限もその 1 つだった。2015 年の改訂版で標準的組み合わせを扱う規則は廃止された（図 6)。

【エピソード③：リブレット/歌詞の多言語対応】

エピソードの 3 番目。リブレットや歌詞が複数の言語で印刷されている場合の違いについて。最初の例はレハールのオペレッタの抜粋、楽譜の形態はヴォーカル・スコア、オリジナルのドイツ語と英語に翻訳された歌詞がついている…という、ごくありふれた事例である (図 7)。

旧規則では”English & German”というように、2 つまでなら併記することになっていた（翻訳が先という決まりがある)。AACR2 時代の優先タイトル（タグ 100）には原語（ドイツ語）と英語訳で構成されることを示す “English & German” が付記されている。RDA 適用に向けて問題洗い出しのために開発されたソフトウェアが 2013 年 3 月 19 日に実行され、実行結果の注意書きがタグ 667（カタロガー用の注記）に出力されている（閲覧: 2021-01-29)。

RDA では各言語単位に優先タイトルを作成するので、下記の 2 個の優先タイトルに分割される。なお、2 番目のものに「German」という言語名がないのは，オリジナルには言語名をつけないという規則のためである。

Lehár, Franz, 1870-1948. Schön ist die Welt. Vocal score. Selections. English

Lehár, Franz, 1870-1948. Schön ist die Welt. Vocal score. Selections

次は 3 か国語以上のケースで、旧規則では“Polyglot”という用語を用いていたが、RDA では言語ごとにアクセスポイントを作成する。2 つの言語の場合、アクセスポイントで言語名が分かる、という意味で前の規則も RDA も一長一短であるが、3 以上になると、その差は歴然。「Polyglot」では実際の歌詞の言語がわからないので、書誌データの詳細画面を開いて確認することになる。書誌データの中には言語の注記すらないものもあり、最悪は現品確認ということになる（図 8)。AACR2 時代の統一タイトル（タグ 100）は多言語（3 か国語以上）に “Polyglot”を用いている。RDA 適用に向けて問題洗い出しのために開発されたソフトウェアが 2013 年 3 月 15 日に実行され、実行結果の注意書きがタグ 667（カタロガー用の注記）に出力されている（閲覧: 2021-01-29)。

RDA では各言語単位に優先タイトルを作成するので、このアクセスポイントを使用する書誌データ（LCCN 94700007: Mélodies à une voix avec accompagnement de piano, c1921）の注記によれば、下記の 3 個の優先タイトルに分割される。

Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Songs. Selections. English

Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Songs. Selections. French

Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Songs. Selections. German

【エピソード④：関連：資料に関するさまざまな関連】

エピソード 4 では関連を取り上げた。エピソード 1 で著作から個別資料までの基本的関連を紹介したが、ここで扱うのは基本的関連以外のさまざまな関連である。著作と別の著作との関連、著作や表現形と個人の関連。また、個人と団体、個人と個人、団体と団体の関連など、多くのケースがある。

このエピソード 4 では、昨年が生誕 250 年だったベートーヴェンのオペラ、フィデリオの初版の珍しい録音をサンプルとして体現形の書誌データ、そのアクセスポイントとなっている著作の記述データ、付属資料として同じパッケージに入っているリブレット、その原作となった戯曲を記述した著作のデータ間の関連を紹介する（図 9)。

（1）は体現形の情報を収めた記述データ。この形式は UNIMARC を土台とするトッカータの書誌レコードで、入力･修正画面のスクリーン･ショットからの抜粋。RDA 対応のために追加したタグは薄い緑色の網掛になっている。

目録データの主体、タイトルと責任表示はタグ 200 と 2A0、入手のための情報が 210 と 2B0 にある。225 はシリーズ。この録音物は関係者が多いので、アクセスポイントもそこそこの数になっている。青色の文字で表示されているのが統制されたアクセスポイントで、緑の背景に白抜き文字で表示されているのが関連している実体のデータ番号。実際は、この番号のみが入力されている。

タグ 410 はシリーズのアクセスポイント、タグ 225 にあるシリーズ表示の統制形。2 つある 423 はリブレットとその日本語訳に対する関連。その下にある 488 はその他の関連を納めるタグで、その根拠となる情報はタグ 304/01 にある。タグ 700 とそれ以降が著作と個人や団体の関連を示すアクセスポイント。

（2）は歌劇の 1805 年版を記述したデータ。優先形タイトルの下にカタロガー用の注記 B50 があり、別の版の存在と使用方法などを指示している。
別の著作との関連を示すタグ CB0 が 2 つあり、この歌劇が用いたリブレットとの関連と 1806 年の改訂版への関連を示している。

（3）は関連先のリブレットのデータ。タグ CB0 に歌劇への関連と原作への関連が入力されている。

（4）は原作の戯曲に対する記述データ。この戯曲からリブレットとして翻案された歌劇の 3 つの版が関連付けられている。

これら（2)、(3)、(4）のアクセスポイントは書誌レコードにも入力されているが､関連付けには限界があり、著作や表現型を記述する独立したデータを作成してリンク付けする作業は、やはり必要である。体現形のメタデータの中に著作、表現形という次元の異なる実体の関連を持ち込むのは、かなり無理がある。

旧規則のもとで、体現形のデータを収める書誌レコードの見出し語(アクセスポイント)の統一を目的として、個人・団体や著作などの典拠データを作ってきたが、今や､「統一」という役割は求められる機能の一部に過ぎなくなった。そもそも書誌データにあるアクセスポイントの実体を記述する独立したデータがないのは幽霊をみているようなもので、書誌データ単独では、異なる次元にある著作や表現形、個人や団体の属性、それらの関連性を具体的に示すことは不可能に近い。

【エピソード⑤：
図書館界の周辺に存在する関連データベースの参照】

RDA のコンセプトの 1 つ、図書館界の外にあるデータベースとの繋がりを目指すということの実例が図 10。リンク先の URI を黄色の蛍光ペンで強調してある。

【ポストリュード - 後書きにかえて】

今回の発表では、ややランダムに新しい規則によるメタデータを、一部旧規則のものとの対比を交えて紹介したが、アクセスポイントや記述データに大きく変化した

用語が多数ある。主な理由の１つは、エピソード②でも述べた、アウトプット面積を考慮する必要がなくなったために、略語の使用を止め、用語の完全形を用いることになったこと。もう１つは、目録言語に母国語を、より厳格に使用することになったこと。それぞれ下記に一部の典型例を示した。

1）略語から綴られた形へ

AACR2	RDA
arr.	arranged
acc.	accompaniment
unacc.	unaccompanied
Dept.	Department
p.	pages
ill.	illustrations
col.	color
facsim.	facsimile
ed.	edition

略語は RDA が規定している優先情報源中に現れた場合にのみ使用し、それ以外は略語を使用しない（Appendix B）。唯一の例外は"no."と"op."で、この２つは AACR2 の使用法を継続している。"cm"は SI 単位なので略語とはみなさない。"stereo"と"mono"も略語とはみなさないとされている。

2）目録言語に伴う変更

AACR2	RDA
ca.	approximately
fl.	active
[S.l.]	[place of publication not identified]
[s.n.]	[publisher not identified]
[n.d.]	[date of publication not identified]

これらはいずれも目録データ中に実際に出現するため、カタロガーにとっても、情報検索を行うクライアントにとってもインパクトは大きいかも知れない。

最後に演奏手段の用語問題に触れて結びとする。初版の RDA を含めて、これまでの規則では、規則中に代表的な演奏手段の用語を例示して来たが、Post-2015 の RDA では規則内に演奏手段のリストを置くことを止め、外部の演奏手段リスト（実務的には Library of Congress Medium of Performance Thesaurus for Music）を使用することが定められた。これに基づき典拠データのアクセスポイント中の演奏手段用語が変更され始めている。ただし、このためだけに典拠データを集中的に修正することは行われず、通常の典拠作業で遭遇した場合に「ついでに」演奏手段も見直す、という作業規定なので、新しい用語に完全移行するまでには相当な時間がかかりそうである。下に具体例をいくつか挙げた。AACR 時代から統一タイトル（RDA: 優先タイトル）中で使用する演奏手段の用語に多くのカタロガー達は苦労してきたが、RDA の時代になってもその苦労から解放される日は遠いようである。

AACR2	RDA
Bach, Carl Philipp Emanuel, 1714-1788. Solos, harp, H. 563, G major	Bach, Carl Philipp Emanuel, 1714-1788. Solos, pedal harp, H. 563, G major
Brahms, Johannes, 1833-1897. Quartets, mixed solo voices, piano, op. 31	Brahms, Johannes, 1833-1897. Quartets, singers (4), piano, op. 31
Fauré, Gabriel, 1845-1924. Benedictus, mixed voices, organ, B♭ major	Fauré, Gabriel, 1845-1924. Benedictus, mixed chorus, organ, B♭ major
Puccini, Domenico, 1772-1815. Duettinos, soprano, tenor, piano	Puccini, Domenico, 1772-1815. Duettinos, soprano voice, tenor voice, piano

（株式会社トッカータ　取締役）

図 1：第 1 グループの実体と主要な関連（和中幹雄ほか訳『書誌レコードの機能要件』（日本図書館協会、2004）、p.20）

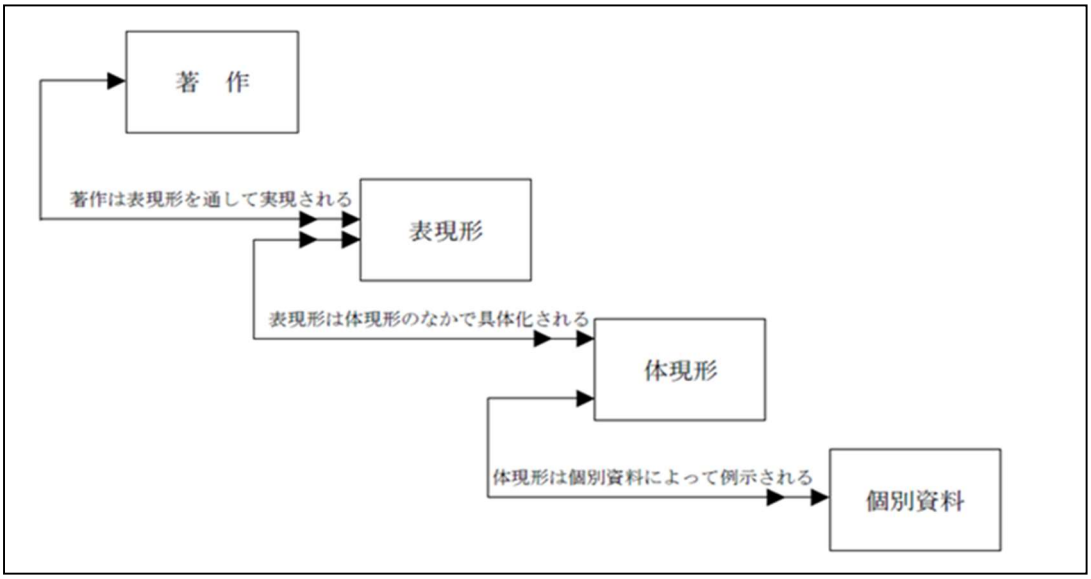


図 2：著作と表現形の関係者

著作: ピアノ独奏の組曲

RDA: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Kartinki s vystavki

NCR2018（日本語）: ムソルグスキー, モデスト ペトロヴィチ, 1839-1881. 展覧会の絵 // ﾑｿﾙｸﾞｽｷｰ, ﾓﾃﾞｽﾄ ﾍﾟﾄﾛｳﾞｨﾁ, 1839-1881. ﾃﾝﾗﾝｶｲ ﾉ ｴ

創作者（作曲者）:

RDA: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881

NCR2018（日本語）: ムソルグスキー, モデスト ペトロヴィチ, 1839-1881 // ﾑｿﾙｸﾞｽｷｰ, ﾓﾃﾞｽﾄ ﾍﾟﾄﾛｳﾞｨﾁ, 1839-1881

(Toccata MARC/B 体現形ヒット=140 [スコア=3; オーディオ: CD=102, LP=18, CC=13; 映像: DVD=1, LD=3])

表現形①: 編曲者不詳

RDA: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Kartinki s vystavki; arranged

NCR2018（日本語）: ムソルグスキー, モデスト ペトロヴィチ, 1839-1881. 展覧会の絵; 編曲 // ﾑｿﾙｸﾞｽｷｰ, ﾓﾃﾞｽﾄ ﾍﾟﾄﾛｳﾞｨﾁ, 1839-1881. ﾃﾝﾗﾝｶｲ ﾉ ｴ; ﾍﾝｷｮｸ

(Toccata MARC/B 体現形ヒット=138 [CD=90, LP=27, CC=16, LD=4])

表現形②: 福本信太郎 編曲（サクソフォン アンサンブル）

RDA: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Kartinki s vystavki; arranged (Fukumoto)

NCR2018（日本語）: ムソルグスキー, モデスト ペトロヴィチ, 1839-1881. 展覧会の絵; 編曲（福本）// ﾑｿﾙｸﾞｽｷｰ, ﾓﾃﾞｽﾄ ﾍﾟﾄﾛｳﾞｨﾁ, 1839-1881. ﾃﾝﾗﾝｶｲ ﾉ ｴ; ﾍﾝｷｮｸ (ﾌｸﾓﾄ)

寄与者（編曲者）:

RDA: Fukumoto, Shintaro

NCR2018（日本語）: 福本, 信太郎 // ﾌｸﾓﾄ, ｼﾝﾀﾛｳ

(Toccata MARC/B 体現形ヒット=1 [CD=1])

図 2：著作と表現形の関係者

表現形③: 長生淳 編曲（サクソフォンとピアノ）

RDA: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Kartinki s vystavki; arranged (Nagao)

NCR2018 (日本語): ムソルグスキー, モデスト ペトロヴィチ, 1839-1881. 展覧会の絵; 編曲 (長生) // ﾑｿﾙｸﾞｽｷｰ, ﾓﾃﾞｽﾄ ﾍﾟﾄﾛｳﾞｨﾁ, 1839-1881. ﾃﾝﾗﾝｶｲ ﾉ ｴ; ﾍﾝｷｮｸ (ﾅｶﾞｵ)

寄与者 (編曲者):

RDA: Nagao, Jun, 1964-

NCR2018 (日本語): 長生, 淳, 1964- // ﾅｶﾞｵ, ｼﾞｭﾝ, 1964-

(Toccata MARC/B 体現形ヒット=2 [Score=1, CD=1])

表現形④: モーリス・ラヴェル 編曲（管弦楽）

RDA: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Kartinki s vystavki; arranged (Ravel)

NCR2018 (日本語): ムソルグスキー, モデスト ペトロヴィチ, 1839-1881. 展覧会の絵; 編曲 (ラヴェル) // ﾑｿﾙｸﾞｽｷｰ, ﾓﾃﾞｽﾄ ﾍﾟﾄﾛｳﾞｨﾁ, 1839-1881. ﾃﾝﾗﾝｶｲ ﾉ ｴ; ﾍﾝｷｮｸ (ﾗｳﾞｪﾙ)

寄与者 (編曲者):

RDA: Ravel, Maurice, 1875-1937

NCR2018 (日本語): ラヴェル, モーリス, 1875-1937 // ﾗｳﾞｪﾙ, ﾓｰﾘｽ, 1875-1937

(Toccata MARC/B 体現形ヒット= 145 [Score=1, CD=122, LP=11, CC=6, DVD=3, LD=2])

図 3：ムソルグスキー作曲, ラヴェル編曲, 展覧会の絵（表現形の記述データ（LC/NACO））

ムソルグスキー作曲, ラヴェル編曲, 展覧会の絵 (表現形の記述データ (LC/NACO))

LC control no.: no2019124048

LCCN https://lccn.loc.gov/no2019124048

Permalink:

HEADING: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Kartinki s vystavki; arranged (Ravel)

000 03392cz a2200325n 450

001 11193719

005 20200215073129.0

008 190822n $ azannaabn $a aaa c

010 __ $a no2019124048

035 __ $a (OCoLC)oca12376409

040 __ $a WaU $b eng $e rda $c WaU $d OCoLC $d WaU

046 __ $k 1922 $2 edtf

100 1_ $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Kartinki s vystavki; $o arranged $s (Ravel)

381 __ $a arranged

381 __ $a Ravel

382 0_ $a orchestra $e 1 $t 1 $2 lcmpt $0 http://id.loc.gov/authorities/performanceMediums/mp2013015516

386 __ $i Arranger: $a French $2 lcdgt $4 http://id.loc.gov/vocabulary/relators/arr $0 http://id.loc.gov/authorities/demographicTerms/dg2015060737

ムソルグスキー作曲，ラヴェル編曲，展覧会の絵（表現形の記述データ（LC/NACO））

386 __ $i Arranger: $a Men $2 lcdgt $4 http://id.loc.gov/vocabulary/relators/arr $0 http://id.loc.gov/authorities/demographicTerms/dg2015060359

400 1_ $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Bilder einer Ausstellung

400 1_ $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Cuadros de una exposición

400 1_ $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Pictures at an exhibition

400 1_ $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Pictures from an exhibition

400 1_ $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Tableaux d'une exposition

500 1_ $w r $i Arranger of music: $a Ravel, Maurice, $d 1875-1937 $0 http://id.loc.gov/authorities/names/n79108396 $1 http://id.loc.gov/rwo/agents/n79108396

667 __ $a URIs added to this record for the PCC URI MARC Pilot. Please do not remove or edit the URIs.

670 __ $a Mussorgsky, Modest Petrovich. Pictures at an exhibition = Tableaux d'une exposition = Bilder einer Ausstellung, 2002: $b title page (Moussorgsky ; [orchestration by Maurice] Ravel)

670 __ $a Mussorgsky, Modest Petrovich. Tableaux d'une exposition = Pictures from an exhibition = Cuadros de una exposición, 1929: $b title page (M.P. Mussorgsky ; orchestrated by Maurice Ravel) cover (Bilder einer Ausstellung)

670 __ $a Wikipedia, August 22, 2019 $b (Pictures at an Exhibition (Russian: Картинки с выставки : Воспоминание о Викторе Гартмане = Kartinki s vystavki : Vospominanie o Viktore Gartmane, French: Tableaux d'une exposition) is a suite of ten pieces (plus a recurring, varied Promenade) composed for piano by Russian composer Modest Mussorgsky in 1874; Arrangements: The version by Maurice Ravel, produced in 1922 on a commission by Serge Koussevitzky, represents a virtuoso effort by a master colourist. The orchestration has proved the most popular in the concert hall and on record. Ravel omitted the Promenade between "Samuel Goldenberg and Schmuÿle" and "Limoges" and applied artistic license to some particulars of dynamics and notation)

670 __ $a Grove music online, August 22, 2019 $b (under Musorgsky [Mussorgsky; Moussorgsky], Modest Petrovich: At least a dozen orchestrations of Pictures from an Exhibition have been made; the earliest is by Mikhail Tushmalov (?1891), the best known by Ravel (1922))

670 __ $a Boosey & Hawkes website, February 14, 2020 $b (Moussorgsky - Ravel; Pictures at an Exhibition (orch. Ravel) (1922); arranged for orchestra; Duration: 29' ; Scoring: 3(II,III=picc).3(III=corA).2.bcl.asax.2.dbn-4.3.3.1-timp.perc:glsp/t.bells/xyl/cyms/tam-t/tgl/whip/BD/SD/rattle-2harps-cel-strings) $u https://www.boosey.com/cr/music/Modeste-Moussorgsky-Pictures-at-an-Exhibition-orch-Ravel/2582

図 4：ムソルグスキー作曲，ラヴェル編曲，展覧会の絵（表現形の記述データ（Toccata MARC/A））

ムソルグスキー作曲，ラヴェル編曲，展覧会の絵（表現形の記述データ（Toccata MARC/A））

```
01049atmn    t  2200234     0013
001 00       a81038461≠
002 00       a83001786:Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881 = ムソルグスキー, モデスト ペトロヴィチ, １８３９－１８８１ //ﾑｿﾙｸﾞｽｷｰ, ﾓﾃﾞｽﾄ ﾍﾟﾄﾛｳﾞｨﾁ, 1839-1881≠
005 00       20210127152241≠
020 00       $ano2019124048$uhttps://lccn.loc.gov/no2019124048≠
035 00       $a(OCoLC)oca12376409≠
035 01       $a(VIAF)409715716207817898000l≠
100 00       $a20111105 a axxxb   aax0jpn≠
180 00  0    $aUS$bWaU≠
180 01  1    $aUS$bWaU≠
180 02  2    $aUS$bWaU$c20200215$erda≠
180 03  2    $aJP$bTOC$c20201028≠
A5A 00 3     $wn 20201028 ad001x   x x $aKartinki s vystavki$tarranged$nRavel≠
```

ムソルグスキー作曲，ラヴェル編曲，展覧会の絵 (表現形の記述データ (Toccata MARC/A))

A5K 00 3 $wn 20201028 zd002x x x $A 展覧会の絵$T 編曲$N ラヴェル$a ﾃﾝﾗﾝｶｲ ﾉ ｴ$t ﾍﾝｷｮｸ$n ﾗﾞｪﾙ≠

C20 00 $wn 20141008 zd003x x x $aSuites = 組曲$2lcgft/tmgft≠

C21 00 $wn 20141008 zd004x x x $aarranged = 編曲≠

C21 01 $wn 20141008 zd005x x x $aRavel = ラヴェル≠

C22 00 0 $wn 20171110 zd006x x x $aorchestra = 管弦楽$n1$2lcmpt/tmmpt$3a01400852$7ba$aorchestra$7da$A 管弦楽$7dc$a ｶﾝﾀﾞﾝｶﾞｸ≠

C36 00 $wn 20201028 zd007x x x $0Arranger of music = 編曲者:$cFrench = フランス人$mNational/Regional group = 国/地域グループ $2lcdgt/tmdgt$0[nat]dg2015060737≠

C36 01 $wn 20201028 zd008x x x $0Arranger of music = 編曲者:$aMen = 男性$mGender group = 性グループ$ngdr$2lcdgt/tmdgt$0dg2015060359 ≠

C61 00 06 $wn 20171110 zz009x x x $bd1922≠

C76 00 $wn 20111105 xx010x x x $v20$a784.2/1858/18362≠

CB0 00 $wn 20141008 zd011x xua $0Arranger of music = 編曲者:$3a83001840$7ba$aRavel$bMaurice$f1875-1937$7da$A ラヴェル$B モーリス$F １８７５－１９３７$7dc$a ﾗﾞｪﾙ$b ﾓｰﾘｽ$f1875-1937≠

E5A 00 3 $wn 20201028 az012x x x $aBilder einer Ausstellung≠

E5A 01 3 $wn 20201028 az013x x x $aCuadros de una exposición≠

E5A 02 3 $wn 20201028 az014x x x $aPictures at an exhibition≠

E5A 03 3 $wn 20201028 az015x x x $aPictures from an exhibition≠

E5A 04 3 $wn 20201028 az016x x x $aTableaux d’ une exposition≠

F00 00 $wn 20111105 xx017x x x $aSummer night concert Schönbrunn 2011 [SR] p2011 (容器)$bPictures et an exhibition / Modest Mussorgsky ; orchestration, Maurice Ravel = 展覧会の絵 : 組曲 / モデスト・ムソルグスキー ; オーケストレーション, モーリス・ラヴェル≠

F00 01 $wn 20171110 xx018x x x $aPictures at an exhibition / Modest Mussorgsky ; Ravel orchestration (1922) ... ℗2016≠

F00 02 $wn 20201028 xx019x x x $aLibrary of Congress authority record: Mussorgsky, Modest Petrovich. Pictures at an exhibition = Tableaux d’ une exposition = Bilder einer Ausstellung, 2002:$btitle page (Moussorgsky ; [orchestration by Maurice] Ravel)≠

F00 03 $wn 20201028 xx020x x x $aLibrary of Congress authority record: Mussorgsky, Modest Petrovich. Tableaux d’ une exposition = Pictures from an exhibition = Cuadros de una exposición, 1929:$btitle page (M.P. Mussorgsky ; orchestrated by Maurice Ravel) cover (Bilder einer Ausstellung)≠

F00 04 $wn 20201028 xx021x x x $aLibrary of Congress authority record: Wikipedia, August 22, 2019$bPictures at an Exhibition (Russian: Картинки с выставки : Воспоминание о Викторе Гартмане = Kartinki s vystavki : Vospominanie o Viktore Gartmane, French: Tableaux d’ une exposition) is a suite of ten pieces (plus a recurring, varied Promenade) composed for piano by Russian composer Modest Mussorgsky in 1874; Arrangements: The version by Maurice Ravel, produced in 1922 on a commission by Serge Koussevitzky, represents a virtuoso effort by a master colourist. The orchestration has proved the most popular in the concert hall and on record. Ravel omitted the Promenade between "Samuel Goldenberg and Schmuÿle" and "Limoges" and applied artistic license to some particulars of dynamics and notation≠

F00 05 $wn 20201028 xx022x x x $aLibrary of Congress authority record: Grove music online, August 22, 2019$bunder Musorgsky [Mussorgsky; Moussorgsky], Modest Petrovich: At least a dozen orchestrations of Pictures from an Exhibition have been made; the earliest is by Mikhail Tushmalov (?1891), the best known by Ravel (1922)≠

F00 06 $wn 20201028 xx023x x x $aLibrary of Congress authority record: Boosey & Hawkes website, February 14, 2020$bMoussorgsky - Ravel; Pictures at an Exhibition (orch. Ravel) (1922); arranged for orchestra; Duration: 29’ ; Scoring: 3(II,III=picc).3(III=corA).2.bcl.asax.2.dbn-4.3.3.1-timp.perc:glsp/t.bells/xyl/cyms/tam-t/tgl/whip/BD/SD/ rattle-2harps-cel-strings$uhttps://www.boosey.com/cr/music/Modeste-Moussorgsky-Pictures-at-an-Exhibition-orch-Ravel/2582≠

F00 07 $wn 20201028 xx024x x x $aLibrary of Congress Name authority record: no2019124048, Last rev. WaU 2020-02-15$brda preferred form of access point: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Kartinki s vystavki; arranged (Ravel)≠

図 5：モーツァルト作曲「不協和音」四重奏曲（K. 465）の優先タイトルの変遷

最終日付	規則	典拠形アクセスポイント
2007-06-13	AACR2	Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791. Quartets, strings, K. 465, C major
2014-09-25	RDA 2014 [暫定]	Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791. Quartets, violins, viola, cello, K. 465, C major
2020-12-29	RDA 2015	Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791. Quartets, violins (2), viola, cello, K. 465, C major

図 6：AACR2/RDA 初版（2010）→ RDA 2015 改訂版の代表的な比較事例（4 例）

典拠形アクセスポイント	規則/タイプ
Brahms, Johannes, 1833-1897. Trios, piano, strings, no. 3, op. 101, C minor	AACR2/RDA 2010/標準的組み合わせ
Brahms, Johannes, 1833-1897. Trios, piano, violin, cello, no. 3, op. 101, C minor	RDA 2015

典拠形アクセスポイント	規則/タイプ
Haidmayer, Karl, 1927- Quintets, winds	AACR2/RDA 2010/標準的組み合わせ
Haidmayer, Karl, 1927- Quintets, flute, oboe, clarinet, horn, bassoon	RDA 2015

典拠形アクセスポイント	規則/タイプ
Boccherini, Luigi, 1743-1805. Sextets, woodwinds, horn, strings, G. 467, E ♭ major	AACR2/RDA 2010/数量制限
Boccherini, Luigi, 1743-1805. Sextets, oboe, bassoon, horn, violin, viola, double bass, G. 467, E ♭ major	RDA 2015

典拠形アクセスポイント	規則/タイプ
Grainger, Percy, 1882-1961. British folk-music settings. Green bushes, instrumental ensemble	AACR2/RDA 2010/数量制限
Grainger, Percy, 1882-1961. British folk-music settings. Green bushes, piano, reed organ, piccolo, flute, oboe, clarinet, bassoon, contrabassoon, saxophones (2), trumpet, horns (2), percussion, violins (3), violas (2), cellos (2), double bass	RDA 2015

図 7：レハールのオペレッタの抜粋：AACR2 時代の表現形

LC control no.: n 2001067395
LCCN Permalink: https://lccn.loc.gov/n2001067395
HEADING: Lehár, Franz, 1870-1948. Schön ist die Welt. Vocal score. Selections. English & German
000 00703cz a2200157n 450
001 5426774
005 20130319100933.0
008 010724n| acannaabn |a aaa
010 __ $a n 2001067395
040 __ $a DLC $b eng $c DLC $d DLC
100 1_ $a Lehár, Franz, $d 1870-1948. $t Schön ist die Welt. $s Vocal score. $k Selections. $l English & German
400 1_ $w nnea $a Lehár, Franz, $d 1870-1948. $t Schön ist die Welt. $s Vocal score. $l English & German. $k Selections
400 1_ $a Lehár, Franz, $d 1870-1948. $t Songs from Schoen ist die Welt
667 __ $a THIS 1XX FIELD CANNOT BE USED UNDER RDA UNTIL THIS RECORD HAS BEEN REVIEWED AND/OR UPDATED
670 __ $a Lehár, Franz. Songs from Schoen ist die Welt, c1978.
953 __ $a vk17 $b vk79

図 8：ムソルグスキー作曲の歌曲集・複数言語訳に対する表現形データ

LC control no.：n 94000363

LCCN Permalink: https://lccn.loc.gov/n94000363

HEADING: Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881. Songs. Selections. Polyglot

000 00743cz a2200169n 450

001 4049803

005 20130315125309.0

008 940104n| acannaab |a aaa

010 __ $a n 94000363

035 __ $a (DLC)n 94000363

040 __ $a DLC $b eng $c DLC $d DLC

100 1_ $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Songs. $k Selections. $l Polyglot

400 1_ $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Mélodies à une voix avec accompagnement de piano

400 1_ $w nnea $a Mussorgsky, Modest Petrovich, $d 1839-1881. $t Songs. $l Polyglot. $k Selections

667 __ $a THIS 1XX FIELD CANNOT BE USED UNDER RDA UNTIL THIS RECORD HAS BEEN REVIEWED AND/OR UPDATED

670 __ $a Mussorgsky, M.P. Mélodies à une voix avec accompagnement de piano, c1921.

図 9：『フィデリオ』の記述データ例

(1) ベートーヴェン作曲フィデリオ (1805): CD (2017 年録音)―体現形の記述データ

```
*****njm0  22*****    450
001 00     b021000141≠
004 00     KKC6133≠
005 00     20210120091754≠
019 01 70  $a4909346020320$2JAN≠
030 00 00  $aKKC 6133$bKing International Inc.$d¥6000≠
071 01 00  $aHMM 932414$bHarmonia Mundi$cdisc 1≠
071 02 00  $aHMM 932415$bHarmonia Mundi$cdisc 2≠
100 00     $a20210120h20202019r   y0jpny        ba≠
101 00 2   $ager$hger$hjpn$iger$ieng$ijpn≠
102 00     $aJP$aFR≠
126 00     $a022000002afbbibxxif2    eihdf $bbex≠
128 00     $aop|≠
181 00  0  $ad3$bbxxa##≠
181 01  0  $ai2$bxxxe##$8libretto≠
181 02     $cprm$2rdacontent≠
181 03     $ctxt$2rdacontent$8libretto≠
182 00  0  $aa≠
182 01  0  $an$8libretto≠
182 02     $cs$2rdamedia≠
182 03     $cn$2rdamedia$8libretto≠
183 00  0  $asd$2rdacarrier≠
183 01  0  $anc$2rdacarrier$8libretto≠
200 00 1   $aLeonore$fBeethoven$gRene´ Jacobs≠
2A0 00 1   $A 歌劇『レオノーレ』$a ｶﾞｷ ﾚｵﾉｰﾚ$E ｏｐ．７２ａ，　１８０５年版（第１稿）$E［全曲録音］$F ルートヴィヒ・ヴァン・
           ベートーヴェン$G ルネ・ヤーコプス（指揮）　フライブルク・バロック・オーケストラ≠
203 00     $7ba$amusic$bperformed$caudio$7da$A 音楽$B 実演$C オーディオ≠
```

(1) ベートーヴェン作曲フィデリオ (1805): CD (2017 年録音)—体現形の記述データ

203 01 $7ba$atext$cunmediated$7da$A テキスト$C 非メディア$8libretto≠
210 00 $aArles$cHarmonia Mundi musique s.a.s.$d[2020]$d℗2019$d©2020≠
210 01 $aTo¯kyo¯-to Bunkyo¯-ku$cKing International Inc. [distributor]≠
2B0 00 $A 東京都文京区$C 輸入・発売元： 株式会社キングインターナショナル$D［２０２０］≠
225 00 1 $a2020/2027 Beethoven, Harmonia Mundi edition≠
281 00 $cperformed music$2rdacontent≠
281 01 $ctext$2rdacontent$8libretto≠
282 00 $caudio$2rdamedia≠
282 01 $cunmediated$2rdamedia$8libretto≠
283 00 $caudio disc$2rdacarrier≠
283 01 $cvolume$2rdacarrier$8libretto≠
304 00 $A タイトルはディスクによる≠
303 00 $A 日本語情報は付属資料による≠
300 00 $A３幕からなるオペラ（『フィデリオ』第１稿）≠
302 00 $A 歌唱： ドイツ語 （歌詞対訳つき）≠
304 01 $A 台本： ヨーゼフ・ゾンライトナー （ジャン＝ニコラ・ブイイのフランス語台本「レオノーレ, または夫婦愛」による）≠
304 02 $A ダイアローグ監修： ルネ・ヤーコプス≠
305 00 $A 使用楽譜： ブライトコプフ＆ヘルテル社≠
323 00 $aMarlis Petersen, Leonore (soprano) ; Maximilian Schmitt, Florestan (tenor) ; Dimitry Ivashchenko, Rocco (bass) ; Robin Johannsen, Marzelline (soprano) ; Johannes Weisser, Don Pizarro (baritone) ; Tareq Nazmi, Don Fernando (bass) ; Johannes Chum, Jaquino (tenor) ; Zu¨rcher Sing-Akademie ; Freiburger Barockorchester ; Rene´ Jacobs, conductor≠
3C2 00 $A マルリス・ペーターセン, レオノーレ （ソプラノ） ; マキシミリアン・シュミット, フロレスタン （テノール） ; ディミトリ・イヴァシュチェンコ, ロッコ （バス） ; ロビン・ヨハンセン, マルツェリーネ （ソプラノ） ; ヨハネス・ヴァイサー, ドン・ピツァロ （バリトン） ; タレク・ナズミ, ドン・フェルナンド （バス） ; ヨハンネス・チュム, ヤキーノ （テノール） ; チューリッヒ・ジング・アカデミー ; フライブルク・バロック・オーケストラ ; ルネ・ヤーコプス （指揮）≠
307 00 $A 解説： クセニヤ・ザドラヴェク （英訳： チャールズ・ジョンストン, 邦訳： 川嶋文丸）≠
302 01 $A 録音： ２０１７年１１月７日, フィルハーモニー・ド・パリ, ライヴ録音≠
410 00 0 $15012 $3a02001577$7ba$aWorks$lSelections$nHarmonia Mundi$7da$A 全集$L 抜粋$N ハルモニア ムンディ$7dc$aｾﾚｸｼｮﾝ$lﾊﾞｯｽｲ$n ﾊﾙﾓﾆｱ ﾑﾝﾃﾞｨ$17000 $3a83001204$7ba$aBeethoven$bLudwig van$f1770-1827$7da$A ベートーヴェン$B ルートヴィヒ ファン$F１７７０－１８２７$7dc$aﾍﾞｰﾄｰｳﾞｪﾝ$b ﾙｰﾄｳﾞｨﾋ ﾌｧﾝ$f1770-1827$400≠
423 00 0 $150000$3a01601409$7ba$aFidelio$n1805$7da$A フィデリオ$N１８０５$7dc$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1805$17000 $3a91006031$7ba$aSonnleithner$bJoseph Ferdinand$f1766-1835$7da$A ゾンライトナー$B ヨーゼフ フェルディナント$F１７６６－１８３５$7dc$aｿﾞﾝﾗｲﾄﾅｰ$b ﾖｰｾﾞﾌ ﾌｪﾙﾃﾞｨﾅﾝﾄ$f1766-1835$404≠
423 01 0 $150000$3a02003398$7ba$aFidelio$n1805$mJapanese$nKawashima$7da$A フィデリオ$N１８０５$M 日本語$N 川嶋$7dc$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1805$mﾆﾎﾝｺﾞ$nｶﾜｼﾏ$17000 $3a91006031$7ba$aSonnleithner$bJoseph Ferdinand$f1766-1835$7da$A ゾンライトナー$B ヨーゼフ フェルディナント$F１７６６－１８３５$7dc$aｿﾞﾝﾗｲﾄﾅｰ$b ﾖｰｾﾞﾌ ﾌｪﾙﾃﾞｨﾅﾝﾄ$f1766-1835$404≠
488 00 0 $150000$3a92028373$7ba$aLe´onore$7da$A レオノール$7dc$aﾚｵﾉｰﾙ$17000 $3a92028365$7ba$aBouilly$bJ. N.$q(Jean Nicolas)$f1763-1842$7da$A ブイイ$B Ｊ． Ｎ． $Q（ジャン ニコラ）$F１７６３－１８４２$7dc$aﾌﾞｲｲ$bｼﾞ． ｴﾇ.$q(ｼﾞｬﾝ ﾆｺﾗ)$f1763-1842$404≠
606 00 1 $3a83001956$7ba$aOperas$7da$A 歌劇$7dc$aｶﾞｷ≠
608 00 $3a01501464$7ba$aOperas$7da$A 歌劇$7dc$aｶﾞｷ≠
620 00 41 $7ba$aFrance$dParis$ePhilharmonie de Paris$f20171107$7da$A フランス$D パリ$E フィルハーモニー・ド・パリ≠
700 00 1 $3a83001204$7ba$aBeethoven$bLudwig van$f1770-1827$7da$A ベートーヴェン$B ルートヴィヒ ファン$F１７７０－１８２７$7dc$aﾍﾞｰﾄｰｳﾞｪﾝ$b ﾙｰﾄｳﾞｨﾋ ﾌｧﾝ$f1770-1827$400$3a92052355$7ba$aFidelio$n1805$7da$A フィデリオ$N１８０５$7dc$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1805≠
702 00 0 $3a91006031$7ba$aSonnleithner$bJoseph Ferdinand$f1766-1835$7da$A ゾンライトナー$B ヨーゼフ フェルディナント$F１７６６－１８３５$7dc$aｿﾞﾝﾗｲﾄﾅｰ$b ﾖｰｾﾞﾌ ﾌｪﾙﾃﾞｨﾅﾝﾄ$f1766-1835$402≠
702 01 0 $3a76034879$7ba$aPetersen$bMarlis$7da$A ペーターゼン$B マルリス$7dc$aﾍﾟｰﾀｰｾﾞﾝ$b ﾏﾙﾘｽ$426≠
702 02 0 $3a79028179$7ba$aSchmitt$bMaximilian$7da$A シュミット$B マクシミリアン$7dc$aｼｭﾐｯﾄ$b ﾏｸｼﾐﾘｱﾝ$426≠

(1) ベートーヴェン作曲フィデリオ (1805): CD (2017 年録音)—体現形の記述データ

```
702 03 0    $3a02000534$7ba$aIvashchenko$bDimitry$7da$A イヴァシュチェンコ$B ディミトリ$7dc$a ｲｳﾞｧｼｭﾁｪﾝｺ$b ﾃﾞｨﾐﾄﾘ$426≠
702 04 0    $3a81010400$7ba$aJohannsen$bRobin$7da$A ジョハンセン$B ロビン$7dc$a ｼﾞｮﾊﾝｾﾝ$b ﾛﾋﾞﾝ$426≠
702 05 0    $3a01601214$7ba$aWeisser$bJohannes$f1980-$7da$A ヴァイサー$B ヨハネス$F １９８０－$7dc$a ヴァイサー$b ヨハネス$f1980-$426
            ≠
702 06 0    $3a02000178$7ba$aNazmi$bTareq$7da$A ナズミ$B タレク$7dc$a ﾅｽﾞﾐ$b ﾀﾚｸ$426≠
702 07 0    $3a79028160$7ba$aChum$bJohannes$7da$A クム$B ヨハネス$7dc$a ｸﾑ$b ﾖﾊﾈｽ$426≠
702 08 0    $3a85016080$7ba$aJacobs$bRene´$7da$A ヤコプス$B ルネ$7dc$a ﾔｺﾌﾟｽ$b ﾙﾈ$424≠
712 00      $3a01602492$7ba$aZu¨rcher Sing-Akademie$7da$A チューリヒ ジングアカデミー$7dc$a ﾁｭｰﾘﾋ ｼﾞﾝｸﾞｰｱｶﾃﾞﾐｰ$426≠
712 01      $3a92060269$7ba$aFreiburger Barockorchester$7da$A フライブルク バロック管弦楽団$7dc$a ﾌﾗｲﾌﾞﾙｸ ﾊﾞﾛｯｸ ｶﾝｹﾞﾝ ｶﾞｸﾀﾞﾝ
            $425≠
801 00  0   $aJP$bTOC$c20210119$gRDA≠
```

(2) ベートーヴェン作曲フィデリオ (歌劇 1805): 著作の記述データ

```
03496atmn   t  2200698     0042
001 00      a92052355≠
002 00      a83001204:Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 = ベートーヴェン, ルートヴィヒ ファン, １７７０－１８２７ //ﾍﾞｰﾄｰｳﾞｪﾝ, ﾙｰﾄｳﾞｨﾋ ﾌｧﾝ,
            1770-1827≠
005 00      20210202142113≠
020 00      $an  87104993 $uhttps://lccn.loc.gov/n87104993≠
035 00      $a(VIAF)181018904≠
100 00      $a19921009 a axxxa  aax0jpn≠
180 00  0   $aUS$bDLC≠
180 01  1   $aUS$bDLC≠
180 02  2   $aUS$bDLC$c20161222$erda≠
180 03  2   $aJP$bTOC$c20210202≠
A5A 00 3    $wn 20210202 ad001x  x x $aFidelio$n1805≠
A5K 00 3    $wn 20210202 zd002x  x x $A フィデリオ$N１８０５$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1805≠
B50 00      $wn 19921009 az003x  x x $a1814 年版は現在では標準版として演奏されているが, 前の版も時々再演されることがある. このために目録では 3 つの版を区別して使用する (例)$b[Fidelio (1805)]; [Fidelio (1806)]; [Fidelio (1814)]$a 目録対象資料の版が不明の場合には 1814 年版を用いる.≠
B50 01      $wn 19921009 az004x  x x $a 件名標目での使用: 1814 年版に関する著作, 前の版の題材を含む 1814 年版に関する著作, 特定の版に限定しない著作に対して 1814 年版に対する標目を用いる. 1805 年または 1806 年版のみに関する著作にはそれぞれの版に対する標目を用いる.≠
C17 00      $wn 20210202 zd005x  x x $ager≠
C20 00      $wn 20210202 zd006x  x x $aOperas = 歌劇$2lcgft/tmgft≠
C61 00 00   $wn 19921009 zz007x  x x $bd1805≠
C76 00      $wn 19921009 xx008x  x x $v20$a782.1≠
CB0 00      $wn 20210202 zd009x  xta $0Libretto (work) = リブレット (著作):$3a91006031$7ba$aSonnleithner$bJoseph Ferdinand$f1766-1835$7da$A
            ゾンライトナー$B ヨーゼフ フェルディナント$F１７６６－１８３５$7dc$a ｿﾞﾝﾗｲﾄﾅｰ$b ﾖｰｾﾞﾌ ﾌｪﾙﾃﾞｨﾅﾝﾄ
            $f1766-1835$3a01601409$7ba$aFidelio$n1805$7da$A フィデリオ$N１８０５$7dc$a ﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1805≠
CB0 01      $wn 20210202 zd010x  xtx $0Revised as (work) = 改訂 (著作):$3a83001204:Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 = ベートーヴェン, ルートヴィヒ ファン, １７７０－１８２７ //ﾍﾞｰﾄｰｳﾞｪﾝ, ﾙｰﾄｳﾞｨﾋ ﾌｧﾝ, 1770-1827$3a92052347$7ba$aFidelio$n1806$7da$A フィデリオ$N１８０６
            $7dc$a ﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1806≠
E5A 00 3    $wn 19921009 az019x  x x $aLeonore$n1805≠
E5A 01 3    $wn 19980109 zz020x  x x $aTriumph der ehelichen Liebe$n1805≠
E5A 02 3    $wn 20010824 az021x  x x $aTriumph of married love≠
E5A 03 3    $wn 20010824 az022x  x x $aAmour conjugal≠
E5A 04 3    $wn 19980109 zz023x  x x $aLeonore, oder, der Triumph der ehelichen Liebe$n1805≠
E5K 00 3    $wn 19921009 zz024x  x x $A レオノーレ$N１８０５$aﾚｵﾉｰﾚ$n1805≠
E5K 01 3    $wn 19980109 zz025x  x x $A レオノーレ,  または,  夫婦愛の勝利$aﾚｵﾉｰﾚ ﾏﾀﾜ ﾌｳﾌｧｲ ﾉ ｼｮｳﾘ≠
E5K 02 3    $wn 19980109 zz026x  x x $A 夫婦愛の勝利$aﾌｳﾌｧｲ ﾉ ｼｮｳﾘ≠
```

(2) ベートーヴェン作曲フィデリオ (歌劇 1805): 著作の記述データ

F00 00　$wn 19980109 xx027x　x x $aLeonore [SR] / Ludwig van Beethoven. 1997 (ラベル)$bLeonore$a(付属資料)$bLeonore, oder, der Triumph der ehelichen Liebe; recorderd version: 1805 = レオノーレ, または, 夫婦愛の勝利≠

F00 01　$wn 20010824 xx028x　x x $aLibrary of Congress authority record: Beethoven, L. van. Leonore [SR] 1997.≠

F00 02　$wn 20010824 xx029x　x x $aLibrary of Congress authority record: New Grove$bop. 72. Fidelio oder Die eheliche Liebe ("Leonore") (opera, J. Sonnleithner, after J.N. Bouilly: Le´onore ou l'amour conjugal); 1st version (with Leonore ov. no. 2, 1804-5); 2nd version (with Leonore ov. no. 3), 1805-6; final version (with "Fidelio" ov.), 1814≠

F00 03　$wn 20210202 xx030x　x x $aLibrary of Congress Name authority record: n　87104993, Last rev. DLC 2016-12-22$brda preferred form of access point: Beethoven, Ludwig van, 1770-1827. Fidelio (1805)≠

(3) ゾンライトナー作フィデリオ (リブレット 1805): 著作の記述データ

014100tmn　t　2200282　　0016

001 00　a01601409≠

002 00　a91006031:Sonnleithner, Joseph Ferdinand, 1766-1835 = ゾンライトナー, ヨーゼフ フェルディナント, １７６６－１８３５//ｿﾞﾝﾗｲﾄﾅｰ, ﾖｰｾﾞﾌ ﾌｪﾙﾃﾞｨﾅﾝﾄ, 1766-1835≠

005 00　20210202143522≠

020 00　$ano2015149537$uhttps://lccn.loc.gov/no2015149537≠

035 00　$a(OCoLC)oca10315716≠

035 01　$a(VIAF)207144783002551387421≠

100 00　$a20160512 a axxxa　aax0jpn≠

180 00　0　aUSbIEN-Mu≠

180 01　1　aUSbIEN-Mu≠

180 02　2　aUSbHU$c20160410$erda≠

180 03　2　aJPbTOC$c20160512≠

A5A 00 3　$wn 20160512 ad001x　x x $aFidelio$n1805≠

A5K 00 3　$wn 20160512 zd002x　x x $A フィデリオ$N１８０５$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1805≠

C07 00　$wn 20160512 zd003x　x x $atext = テクスト$2rdacontent≠

C17 00　$wn 20160512 zd004x　x x $ager≠

C20 00　$wn 20160512 zd005x　x x $aLibrettos = リブレット$2lcsh/tmsh≠

C61 00 00　$wn 20160512 zz007x　x x $bd1805≠

C76 00　$wn 20160512 xx008x　x x $v20$a782.1/0268≠

CB0 00　$wn 20160512 zd009x　xta $0Libretto for (work) = リブレットの対象 (著作):$3a83001204$7ba$aBeethoven$bLudwig van$f1770-1827$7da$A ベートーヴェン$Bルートヴィヒ ファン$F１７７０－１８２７$7dc$aﾍﾞｰﾄｰｳﾞｪﾝ$bﾙｰﾄｳﾞｨﾋ ﾌｧﾝ $f1770-1827$3a92052355$7ba$aFidelio$n1805$7da$A フィデリオ$N１８０５$7dc$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1805≠

CB0 01　$wn 20160512 zd010x　xta $0Libretto based on (work): = リブレットの原作:$3a92028365$7ba$aBouilly$bJ. N.$q(Jean Nicolas)$f1763-1842$7da$A ブイイ$BＪ．　Ｎ．$Q（ジャン ニコラ）$F１７６３－１８４２$7dc$aﾌﾞｲｲ$bｼﾞ．ｴﾇ.$q(ｼﾞｬﾝ ﾆｺﾗ)$f1763-1842$3a92028373$7ba$aLe´onore$7da$A レオノール$7dc$aﾚｵﾉｰﾙ≠

E5A 00 3　$wn 20160512 az011x　x x $aLeonore$n1805≠

E5A 01 3　$wn 20160512 az012x　x x $aTriumph der ehelichen Liebe$n1805≠

E5A 02 3　$wn 20160512 az013x　x x $aTriumph of married love$n1805≠

E0A 00　1　$wn 20160512 ad014x　xtx $aBeethoven$bLudwig van$f1770-1827$tFidelio (1805). Libretto≠

E5K 00 3　$wn 20160512 zz015x　x x $A レオノーレ$N１８０５$aﾚｵﾉｰﾚ$n1805≠

E5K 01 3　$wn 20160512 zz016x　x x $A 夫婦の愛$N１８０５$aﾌｳﾌ ﾉ ｱｲ$n1805≠

E0K 00　1　$wn 20160512 zd017x　xtx $A ベートーヴェン$B ルートヴィヒ ファン$F１７７０－１８２７$T フィデリオ （１８０５）． リブレット$aﾍﾞｰﾄｰｳﾞｪﾝ$bﾙｰﾄｳﾞｨﾋ ﾌｧﾝ$f1770-1827$tﾌｨﾃﾞﾘｵ (1805). ﾘﾌﾞﾚｯﾄ≠

F00 00　$wn 20160512 xx018x　x x $a フィデリオ / 原作 ブイー ; 台本 ゾンライトナー ; 作曲 ベートーヴェン, 1963≠

F00 01　$wn 20160512 xx019x　x x $aLibrary of Congress authority record: Sonnleithner, Joseph Ferdinand. Fidelio, 1805$btitle page (Fidelio : eine Oper in zwey Aufzu¨gen / frey nach dem Franzo¨sischen bearbeitet von Joseph Sonnleithner ; die Musik ist von Ludwig van Bethoven)≠

F00 02　$wn 20160512 xx020x　x x $aLibrary of Congress authority record: Grove music online, viewed November 6, 2015$bFidelio (Leonore, oder Der Triumph der ehelichen Liebe ("Leonore, or The triumph of married love")); opera in two (originally three) acts by Ludwig van Beethoven to a libretto by Joseph von Sonnleithner (1805), with revisions by Stephan von Breuning (1806) and Georg Friedrich

(3) ゾンライトナー作フィデリオ (リブレット 1805): 著作の記述データ

```
                Treitschke (1814), after Jean-Nicolas Bouilly's French libretto Le´onore, ou L'amour conjugal; Vienna, Theater an der Wien, 20 November 1805 (first version); Theater an der Wien, 29 March 1806 (second version); Ka¨rntnertortheater, 23 May 1814 (final version)≠
F00 03          $wn 20160512 xx021x    x x $aLibrary of Congress Name authority record: no2015149537, Last rev. HU 2016-04-10$brda preferred form of access point: Sonnleithner, Joseph Ferdinand, 1766-1835. Fidelio (1805)≠
```

(4) ブイイ作レオノール: (原作/戯曲) 著作の記述データ

```
01522atmn       t  2200362     0021
001 00          a92028373≠
002 00          a92028365:Bouilly, J. N. (Jean Nicolas), 1763-1842 = ブイイ, J.　N.　(ジャン ニコラ), １７６３－１８４２//ﾌﾞｲｲ, ｼﾞ. ｴﾇ. (ｼﾞｬﾝ ﾆｺﾗ), 1763-1842≠
005 00          20210202143940≠
020 00          $an  82154783 $uhttps://lccn.loc.gov/n82154783≠
035 00          $a(OCoLC)oca00850780≠
035 01          $a(VIAF)185892206≠
100 00          $a19920605 a axxxa   aax0jpn≠
180 00  0       $aUS$bDLC≠
180 01  1       $aUS$bDLC≠
180 02  2       $aUS$bMBCM$c20160130$erda≠
180 03  2       $aJP$bTOC$c20201221≠
A5A 00 3        $wn 20201221 ad001x    x x $aLe´onore≠
A5K 00 3        $wn 20201221 zd002x    x x $A レオノール$a ﾚｵﾉｰﾙ≠
C07 00          $wn 20201221 zd003x    x x $atext = テクスト$2rdacontent≠
C17 00          $wn 20201221 zd004x    x x $afre≠
C20 00          $wn 20201221 zd005x    x x $aDrama = 戯曲$2lcgft/tmgft≠
C61 00 01       $wn 19920605 zz006x    x x $bd1798≠
CB0 00          $wn 20201221 zd007x    xta $0Adapted as libretto (work) = リブレット翻案 (著作):$3a91006031$7ba$aSonnleithner$bJoseph Ferdinand$f1766-1835$7da$A ゾンライトナー$B ヨーゼフ フェルディナント$F１７６６－１８３５$7dc$aｿﾞﾝﾗｲﾄﾅｰ$bﾖｰｾﾞﾌ ﾌｪﾙﾃﾞｨﾅﾝﾄ$f1766-1835$3a01601409$7ba$aFidelio$n1805$7da$A フィデリオ$N１８０５$7dc$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1805≠
CB0 01          $wn 20201221 zd008x    xta $0Adapted as libretto (work) = リブレット翻案 (著作):$3a91006031$7ba$aSonnleithner$bJoseph Ferdinand$f1766-1835$7da$A ゾンライトナー$B ヨーゼフ フェルディナント$F１７６６－１８３５$7dc$aｿﾞﾝﾗｲﾄﾅｰ$bﾖｰｾﾞﾌ ﾌｪﾙﾃﾞｨﾅﾝﾄ$f1766-1835$3a01601410$7ba$aFidelio$n1806$7da$A フィデリオ$N１８０６$7dc$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1806≠
CB0 02          $wn 20201221 zd009x    xta $0Adapted as libretto (work) = リブレット翻案 (著作):$3a91006031$7ba$aSonnleithner$bJoseph Ferdinand$f1766-1835$7da$A ゾンライトナー$B ヨーゼフ フェルディナント$F１７６６－１８３５$7dc$aｿﾞﾝﾗｲﾄﾅｰ$bﾖｰｾﾞﾌ ﾌｪﾙﾃﾞｨﾅﾝﾄ$f1766-1835$3a92052363$7ba$aFidelio$n1814$7da$A フィデリオ$N１８１４$7dc$aﾌｨﾃﾞﾘｵ$n1814≠
E5A 00 3        $wn 19920605 az010x    x x $aAmour conjugal≠
E5A 01 3        $wn 19920605 az011x    x x $aLe´onore, ou, L'amour conjugal≠
E5K 00 3        $wn 19920605 zz012x    x x $A レオノール,　または,　夫婦愛$a ﾚｵﾉｰﾙ, ﾏﾀﾜ, ﾌｳﾌｧｲ≠
E5K 01 3        $wn 19920605 zz013x    x x $A 夫婦愛$a ﾌｳﾌｧｲ≠
E5K 02 3        $wn 20040221 zz014x    x x $A レオノーレ,　または,　夫婦愛$a ﾚｵﾉｰﾚ, ﾏﾀﾜ, ﾌｳﾌｧｲ≠
F00 00          $wn 19920605 xx015x    x x $aFidelio [VR] 1989 (付属資料)$bLe´onore, ou, L'amour conjugal (1798)≠
F00 01          $wn 20040221 xx016x    x x $aFidelio [SR] / Beethoven, 2003 (ブックレット)$bLibret ... after Jean-Nicoles Bouilly; Le´onore, ou l'amour conjugale = ジャン＝ニコラ・ブイイ原作; レオノーレまたは夫婦愛; 戯曲≠
F00 02          $wn 20040221 xx011x    x x $aLibrary of Congress authority record: Beethoven, L. van. Fidelio [SR] 1984, p1980$bnotes (Le´onore, ou, L'amour conjugal)≠
F00 03          $wn 20201221 xx012x    x x $aLibrary of Congress Name authority record: n  82154783 (RETRO), Last rev. MBCM 2016-01-30$brda preferred form of access point: Bouilly, Jean Nicoles, 1763-1842. Le´onore≠
```

図 10：ベートーヴェン作曲「ラズモフスキー四重奏曲」の著作データ（LC/NACO）

HEADING: Beethoven, Ludwig van, 1770-1827. Quartets, violins (2), viola, cello, no. 7-9, op. 59

000 01718cz a2200325n 450

001 2404850

005 20201022074159.0

008 821110n| azannaabn |a aaa

010 __ **$a** n 82099697 **$z** no 98055237

024 8_ **$1** http://dbpedia.org/resource/String_Quartets_Nos._7-9,_Op._59_-_Rasumovsky_(Beethoven)

024 7_ **$a** Q3927118 **$2** wikidata **$1** http://www.wikidata.org/entity/Q3927118

024 7_ **$a** 179832806 **$2** viaf **$1** http://www.viaf.org/viaf/179832806

024 7_ **$a** 13c0c417-12ef-41f2-88bb-619a13ca619f **$2** musicb **$1** http://musicbrainz.org/work/13c0c417-12ef-41f2-88bb-619a13ca619f#_

035 __ **$a** (OCoLC)oca00796262

040 __ **$a** DLC **$b** eng **$e** rda **$c** DLC **$d** DLC **$d** WaBeWWUM

046 __ **$k** 1806 **$2** edtf

100 1_ **$a** Beethoven, Ludwig van, **$d** 1770-1827. **$t** Quartets, **$m** violins (2), viola, cello, **$n** no. 7-9, op. 59

380 __ **$a** Chamber music **$2** lcgft **$0** http://id.loc.gov/authorities/genreForms/gf2014026704 **$1** http://www.wikidata.org/entity/Q189201

382 0_ **$a** violin **$n** 2 **$a** viola **$n** 1 **$a** cello **$n** 1 **$s** 4 **$2** lcmpt

383 __ **$a** no. 7-9 **$b** op. 59

400 1_ **$w** nnea **$a** Beethoven, Ludwig van, **$d** 1770-1827. **$t** Quartets, **$m** strings, **$n** no. 7-9, op. 59

400 1_ **$a** Beethoven, Ludwig van, **$d** 1770-1827. **$t** Rasumovsky-Quartette

400 1_ **$a** Beethoven, Ludwig van, **$d** 1770-1827. **$t** Rasumowsky Streichquartette

400 1_ **$a** Beethoven, Ludwig van, **$d** 1770-1827. **$t** Rasumowsky string quartets

400 1_ **$a** Beethoven, Ludwig van, **$d** 1770-1827. **$t** Razumovsky

400 1_ **$a** Beethoven, Ludwig van, **$d** 1770-1827. **$t** Razumovsky quartets

667 __ **$a** URIs added to this record for the PCC URI MARC Pilot. Please do not remove or edit the URIs.

670 __ **$a** Grove music online, August 13, 2020 **$b** (op. 59. Three String Quartets ' Rasumovsky' , F, e, C; 1806)

952 __ **$a** RETRO

953 __ **$a** xx00 **$b** vk06

第 68 回例会傍聴記

栁澤健太郎

私事になるが、司書教諭資格・司書資格を取得してから 20 年以上が経過した。1990 年代には、当時履修した司書教諭講習の資料組織論（放送大学・志保田務先生）と、司書課程の資料組織概説（近畿大学通信教育部・古川肇先生）・資料組織演習（同・加藤昭雄先生）では、コンピュータによる目録も視野に入ってはいたものの、基本的にはカード目録時代の業務に準拠した内容が組まれていたように記憶している。

今回、鳥海恵司氏を講師に迎えて 2021 年 2 月 7 日に行われた IAML 日本支部第 68 回例会は、この 20 年間における目録規則の変化を、音楽資料の目録作成の観点から振り返る機会になった。講師の鳥海氏は、第 22 回図書館サポートフォーラム賞の受賞者で、現在は株式会社トッカータの取締役を務めておられる。50 年以上の間、一貫して音楽資料の MARC レコード及び書誌・典拠データベースの構築とシステムの標準化に貢献してこられたことが受賞の理由に挙げられており、また長年に渡って、IAML 日本支部個人会員としても活動してこられた。そこで IAML 日本支部では、第 65 回例会「新しい目録規則(NCR2018)からみえてくる未来」、第 67 回例会「典拠コントロールを問い直す：NCR2018 と FRBR」に続く形で、近年の音楽資料目録の推移と現状・課題について、鳥海氏にお話しいただく機会を設けたものである。

例会ではまず、目録規則の変化の経緯を概観した。そもそもの始まりは、IFLA で 1992 年に研究グループを設置し、そのグループの報告書として 1997 年に FRBR が公表されたことにある。今回驚いたのが、このグループの当初の目的が増大する目録作成コストの削減と目録簡略化にあった、との回顧である。周知のように FRBR は、書誌レコードの要件を実体-関連モデルの形で示すもので、これをもとに米国では、AACR2 の後継たる『資源の記述とアクセス』(RDA)が作成された。この一連の動きは、目録の質を犠牲にしても目録作成コストを削減し、作業の迅速化を求める立場からは否定的に見られた（例えば LC のカルホーン報告書）ことを想起すると、研究グループを設置した人々の意図とは異なる形で FRBR を巡る事態が推移した、ということになる。そして日本では、『日本目録規則 2018 年版』(NCR2018)の形で、RDA との相互運用性を意識した目録規則が作成された。

例会では続けて、5 つのエピソードの形で、目録規則の変遷が音楽資料整理の実務に与えた影響を振り返った。大筋としては、エピソード①では FRBR の軸となる「著作―表現形―体現形―個別資料」の関連を、エピソード④では上記以外の FRBR の諸実体との関連を、さらにエピソード⑤では図書館界の外部のデータとの関連を概観し、エピソード②と③では、データへの記載事項の充実化が中心的な話題となった。

エピソード①「表現形の記述データと関係者(編曲者)データの実例」では、FRBR のモデルで明確化された表現形の重要性が、データの例を参照しつつ説明された。例会でとりあげられたのは、ムソルグスキーの「展覧会の絵」である。これには、ラヴェル等による、複数の編曲版がある。このような場合、編曲前の原曲も、また数ある編曲版も、ともに一つの著作に関連づけられる表現形、ということになる。ここで例会の内容を離れて、通常の図書資料で一つの著作に対し複数の表現形がある例を考えると、代表的なのは、原書と翻訳がある場合である。例えば、奥泉光の小説『石の来歴』には、日本語の原書だけではなく英仏蘭訳があるが、これは 1 つの著作に対して 4 つの表現形がある、という関係にある。「展覧会の絵」では、ムソルグスキーの原曲に加え、福本信太郎によるサクソフォン・アンサンブルのための編曲、長生淳によるサクソフォンとピアノのための編曲、ラヴェルによる管弦楽のための編曲…というように、多様な表現形が存在することになる。そして、翻訳については作者に加えて訳者が「寄与者」として表現形リンクされるのと同様、編曲版では、編曲者が「寄与者」として、表現形とリンクされる。

表現形が具体的な媒体に記録されたものが体現形であり、これが従来の図書館資料の整理における「目録対象資料」にあたる。例えば『石の来歴』には、紙に記録された冊子体の版に加えて、電子書籍版が存在する。両者の文字列が同じであれば、両者の表現形は 1 つになるが、体現形は 2 つあることになる。「展覧会の絵」について

いえば、ある 1 つの編曲版の演奏が、LP レコード・カセットテープ・音楽 CD というように 3 種類の媒体で刊行されている場合、1 つの表現形に対して 3 つの体現形があることになる。従来の図書館目録は、この体現形を単位として作成されていたため、作曲者であるムソルグスキーや編曲者であるラヴェルも、それぞれの媒体ごとのデータ（FRBR でいえば体現形に相当）に記録する形になっていた。FRBR のモデルは、従来の目録法では区別されていなかった表現形と体現形との関係を整えることで、作曲者・編曲者を、表現形に対する寄与者として位置づけ直すことを可能としたのである。

例会で示された Toccata MARC において特記すべきなのは、表現形についても、従来の図書館目録にあたる体現形のデータから独立した形でデータを作成し、表現形と体現形とをリンクしていることである。これは、FRBR のモデルおよびそれに基づく目録規則である RDA に忠実に準拠した措置である。これにより、（体現形ではなく）表現形のデータから、その寄与者である作曲者・編曲者のデータ（著者名典拠データ）へのリンクを設けることが可能となっている。編曲者は、LP レコードや音楽 CD といった、個々の媒体についての関係者ではなく、そこに収録された演奏が基づく譜面の関係者であるから、FRBR のモデルに即して言えば当然のことではあるが、FRBR のモデルに忠実に準拠したデータが、利用可能な形で実際に用意されていることの意義は、極めて大きい。

このエピソードでは、著者名典拠データの変化にも触れている。大きな特色は、MARC21 で定められたタグのうち、024 というタグである（Toccata MARC では C85）。このタグに他のデータの ID を入力することで、そのデータとのリンクを設けることが可能になるというもので、RDA の大きな特長である、図書館界の外部のデータとのリンクを実現するものである。例会で示されたラヴェルについての LC の典拠データでは、DBpedia や Wikidata へのリンクが設けられている。また、同一の個人に対して複数の典拠データが作成されてしまう、いわゆる「典拠割れ」と呼ばれる事態は常に発生しうることから、これに対応するためのタグ 010 が設けられており、誤作成が判明して削除されたデータの ID が、正しいデータの側に記録されるようになっており、LC のラヴェルの典拠データにも 010 タグが存在する。

エピソード②「室内楽の標準的組み合わせ」では、LC の持つ「モーツァルト作曲「不協和音」四重奏曲（K. 465）」の著作データを例に、「室内楽の標準的組み合わせ」をめぐる変化が紹介された。目録カードへの出力を想定した目録規則では、同一要素の繰り返し件数が制限される等の制約があった。カードという限られた紙面の上に、なるべく多くの情報を盛り込む必要があったためである。例えば雑誌のタイトルについて、ISO 4 に準拠した略記法が定められた一因は、ここにある。音楽資料の目録においては、統一タイトルのデータに記載する演奏手段が原則的に 3 件に限られ、室内楽については「標準的組み合わせ」に則って「strings」と記述する等、演奏手段となる楽器を記載する際にも制限があった。このようにカード目録を前提とした制限は、RDA においては廃されることが多かったが、なぜか室内楽の「標準的組み合わせ」の制限は 2010 年の RDA 初版に残っていたため、2015 年の改訂版で制限が撤廃されるまでの間に、RDA 導入時と改訂時の 2 回に渡り、目録の修正が必要になったという。この、いわば二度手間にあたる対応は、Toccata MARC が常に RDA 準拠の品質を保つため、データのアップデートを続けてきたために発生したものといえる。なお、残された課題として指摘されたのが、ヴァイオリンの数が示されない（理屈の上では、弦楽「四重奏」なのであるから、ヴィオラとチェロとヴァイオリンがあれば、ヴァイオリンが 2 台であることは推測できるという理由だが、利用者には判りづらい）という点であった。

エピソード③「リブレット/歌詞の多言語対応」では、レハール作曲のオペレッタ“Schön ist die Welt”およびムソルグスキー作曲の歌曲集を例として、リブレットや歌詞が複数の言語で印刷されている場合のデータへの記述方法の変化が紹介された。特に、3 つ以上の言語を記している場合に、従来は（例によってカードでは記載できるスペースの制約があるので）言語を明示せず「polyglot」とのみ記載していたのに対し、RDA では言語を明示する形で、言語の数だけアクセスポイントを作成するようになったという。この改善は利用者の視点からは極めて

重要であり、例えばフランス語圏から日本への留学生が日本の音楽図書館で資料を検索するにあたり、従来の表示でいう「polyglot」の中にフランス語が含まれるか否かは、特に閉架式の図書館の資料請求において死活的に重要な情報であることは明白であろう。

エピソード④「関連：資料に関するさまざまな関連―ベートーヴェンのフィデリオを例に」では、FRBR のリンク関係の基本となる「著作―表現形―体現形―個別資料」以外のリンク関係の例が、MARC のデータベースに含まれるフィデリオのデータ 4 件を例として紹介された。上述のとおり Toccata MARC では、通常の書誌データにあたる体現形のデータに加えて、表現形についても独立したデータを作成し、それぞれのデータに対応するリンク関係を記入している。体現形のデータとしては、フィデリオ 1805 年版に基づく 2017 年の演奏のデータが紹介される。このデータには、演奏に関わった「団体」や「個人」のデータへのリンクが記録される。著作のデータは、フィデリオの 1805 年版、1806 年版、1814 年版を区別する形で 3 件作成されており、それらを相互にリンクしている。楽譜や録音等の音楽資料には、オペラと台本、カンタータと歌詞のように、文字資料と深く関係するものも多い。また、小規模な改編を重ねて再演されてきたものも多い。こうした関係をデータ同士のリンクで伝えることができれば、音楽図書館の利用者にとっての利点は大きい。

エピソード⑤「図書館界の周辺に存在する関連データベースの参照」では、LC のデータから、ベートーヴェン作曲「ラズモフスキー四重奏曲」の著作データをもとに、RDA の一つの長所である「図書館界の外部のデータ」へのリンクの実例が紹介された。このデータには、DBpedia、VIAF、Wikidata 等へのリンクが含まれている。図書館界の外部にある音楽資料という観点で考えると、例えば、著作権の切れた楽譜の画像を掲載するウェブページや、YouTube 等の動画サイトへのリンクを設ける可能性もありうるであろうか。具体的には、オランダバッハ協会では、精力的に演奏やインタビューの動画を YouTube にアップロードし続けている。もし将来、こうしたウェブ上の音楽資料についても、FRBR の構造の中で、既存の演奏と合わせて検索できるような仕組みが整えられれば、その意義もまた大きいであろう。

今回の例会を踏まえると、最近 20 年の目録法の変化は、利用者に大きな利便性を齎しうるものであったことがわかる。「strings」や「polyglot」としてまとめられていた情報が具体的に記されることは、カードという制約がなくなった状況を踏まえて、従来不十分な情報しか盛り込まれていなかった問題点を解消したものといえる。さらに FRBR モデルに準拠して、従来の目録では十分に関係が整理されていなかった著作・表現形・体現形の 3 つの実体を整理し直したことにより、著作・表現形・体現形の 3 実体相互間の、また寄与者その他、3 実体以外のデータとの関連を整った形で明示することが可能になった。これに加えて、図書館界の外部にあるデータとのリンクを設ける方法も整備された。まさに、ランガナタンの 5 法則の最後のもの、「図書館は成長する有機体である」を目録規則の領域で実現していったのが、FRBR から NCR2018 に至る、約 20 年間の歩みであったといってよい。

しかし、どんなに目録規則が優れていても、それを反映した目録が存在しなければ、利用者にとっては意味がない。その点でも、LC や Toccata MARC の実例を紹介しつつ行われた今回の例会は、目録規則の推移とその意義を、利用者にとっての利便性に着目しつつ振り返る、有意義な機会であったといえる。音楽図書館の実務者と利用者とをつなぐ役割を長年担ってきた IAML 日本支部ならではの、時宜に適った企画であった。

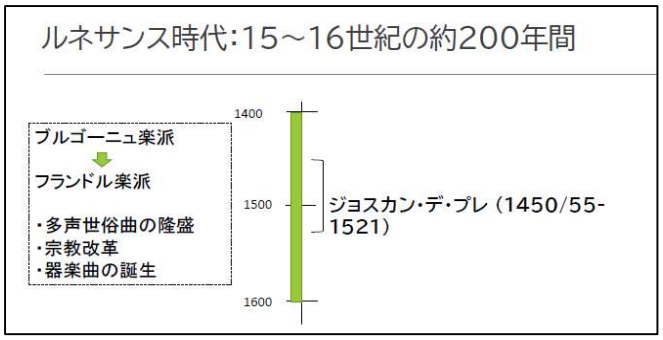
（慶應義塾大学文学部通信教育課程 4 年）

写本から印刷楽譜へ
―ジョスカン・デ・プレの楽譜史料をめぐって―

宮崎晴代

今年、没後500年を迎えるジョスカン・デ・プレ Josquin des Prez (1450/55–1521)。ジョスカンが活躍した1500年前半のヨーロッパでは、まさに写本から初期印刷楽譜へと、「楽譜」の様相が大きく変化した。印刷楽譜の登場は音楽文化にどのような変化を与えたのか。以下では、IAML 日本支部第 69 回例会で用いたスライドを用いつつ、ジョスカンの作品という視点から、楽譜史料の変化とその影響について考察する。

【序．ジョスカン・デ・プレとフランドル楽派】



〔スライド 1〕　ルネサンス時代の音楽史概要

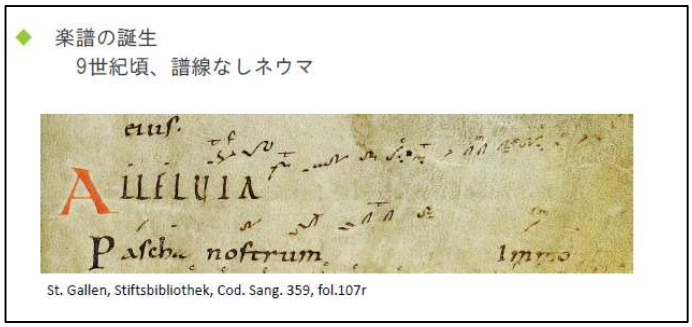
ジョスカン・デ・プレが活躍したのは、いわゆるルネサンスと呼ばれる時代である。ルネサンス時代そのものは、1400～1600 年ぐらいまでの 200 年間に渡るが、その中でもジョスカンはちょうど真ん中あたりの世代に属する。

ルネサンス音楽を概観してみると、15 世紀の前半にブルゴーニュ公国を中心として優れた音楽家がうまれるものの、15 世紀後半に入るとブルゴーニュ公国の力が衰退していき、フランス宮廷に吸収されてしまう。その一方で、公領のあったフランドル地方からは、引き続き優れた音楽家が輩出され、イタリアやフランスを中心として、グローバルに活躍するようになる。16 世紀にはいると、各国の言語を活かした個性的な作品や器楽曲が登場し、器楽は声楽曲の伴奏楽器という立ち位置を獲得した結果、バロックの新しいモノディ様式を生み出す原動力となっていく。

こうした 200 年に渡るルネサンス時代の、まさに中期に位置し、時代の変わり目にその存在感を示すのが、ジョスカン・デ・プレなのである。

【1．ルネサンス時代までの楽譜】

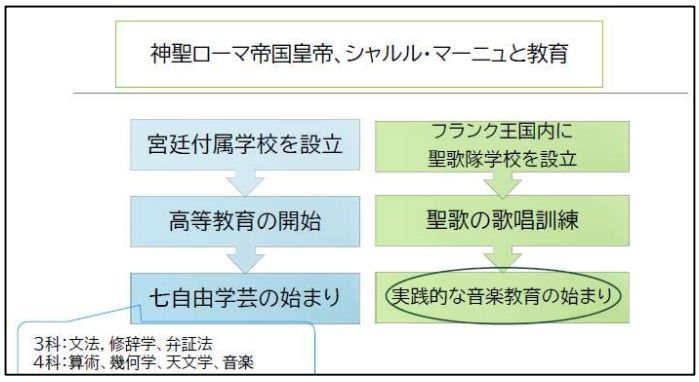
◆楽譜の誕生



〔スライド 2〕　ザンクト・ガレン修道院に所蔵されている 9 世紀ごろのネウマ譜（復活祭のミサの〈アレルヤ〉）

楽譜出版について考える前に、まず楽譜とは何か、そして楽譜の持つ「情報伝達性」について考える必要がある。西洋音楽の歴史は楽譜とともに始まるといわれ、聴覚上で感知した音情報を、二次元上に書きとめ、他者と正確に共有できるようにしたのが楽譜の始まりである。楽譜の最初は、記憶の補助手段としての譜線なしネウマ譜で、9 世紀ごろに、修道院文化の中から、この譜線なしネウマが誕生したといわれる。

◆なぜ 9 世紀頃、楽譜が誕生したのか



〔スライド 3〕思弁的な音楽教育と実践的な音楽教育

カロリング朝、シャルル（カール）1 世はフランク王国の領土を拡大し、800 年にはローマ帝国皇帝に即位。

西ヨーロッパのキリスト教世界とゲルマンの封建社会を結びつけた。このシャルルの戴冠こそが「ヨーロッパ世界の成立」であると考えられている。音楽は「7 自由学芸」の一つとして、高等教育のカリキュラムの一つとして位置づけられる一方、修道院内での聖歌隊教育のための実践的音楽理論も、新たに書かれ始めていた。典礼で歌われる聖歌は、従来、先輩修道士から見習い修道士へと口伝で伝えられていたが、修道院の数が増え、口伝による伝達手段に限界が見えてきたのである。そのため、聖歌を知らない新米修道士や子供の修道士見習いであっても、楽譜から聖歌旋律がどのようなものであるかを知り、歌えるようになる必要がでてきたのである。それが楽譜の誕生の大きな理由である。

◆楽譜の書き方の変遷

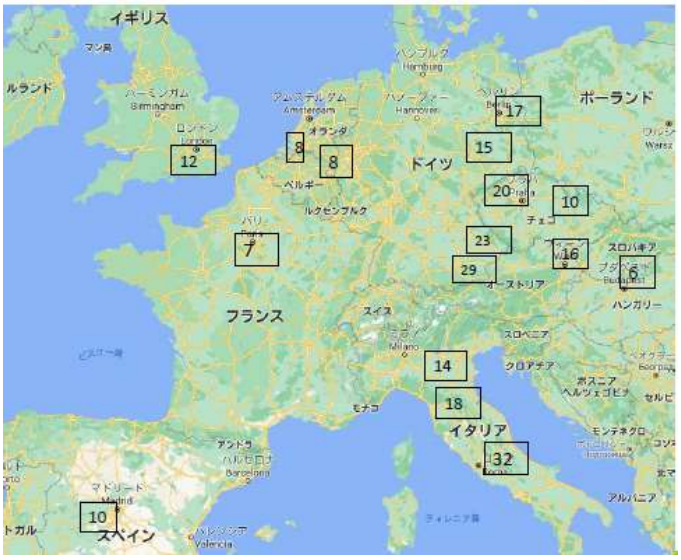
ところで、楽譜の誕生からジョスカンの時代まで、楽譜の書き方、つまり記譜法は大きく変化している。詳細は割愛するが、記譜法の変化の過程で注目すべきポイントは二つ。一つ目は、楽譜から読み取れる情報が、時代と共に客観的かつ正確な方向に進んでいくと言うこと。二つ目は、ブルゴーニュ楽派やフランドル楽派の作曲家たちが国際的に活躍の場を広げていくことに伴い、リズム表記における全ヨーロッパ的な標準化が進んだということである。記憶に頼った譜線なしネウマ譜から始まり、ピッチの表記、リズムの表記、音価の特定、拍子の指示といった様々な過程を経て、ルネサンス時代になると、それまでの各国ごとに異なっていたリズム表記のルールが統一、白符計量記譜法という汎用性の高い記譜法が確立されるのである。

◆写本の文化

このようにして標準化された記譜法のおかげで、フランドル楽派の音楽は広くヨーロッパに伝わって行ったが、そのころの楽譜は、羊皮紙に職人が手作業で書いていく写本という形態であった。羊皮紙は、複雑な工程を経て出来上がる貴重な品だったため高価であり、そこに書かれた楽譜はそう簡単に複写ができない「唯一無二」の作品となっている。

◆写本に残されたジョスカン・デ・プレの作品

ジョスカンの作品は、『ジョスカン新全集』の資料報告によると、複数のミサ曲を収めた写本から、曲の断片まで含め、およそ 430 冊前後の写本に筆写されている。しかもその写本の成立地域もフランスやイタリア各地だけではなく、ドイツ、スペイン、イングランドなど広範囲にわたる。



〔スライド 4〕　ジョスカンの作品が筆写された写本の分布図

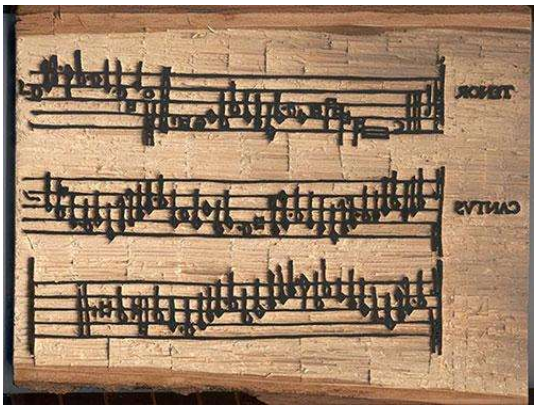
このスライドでは、ジョスカンの作品が収められている写本の所在地ごとに、何冊の写本が所蔵されているかを示した。モテット 1 曲だけの写本もあれば、ミサが 5 曲入っている写本もあり、中身はばらつきがあり、さらにジョスカンの没後に移動されて現在の図書館に所蔵された写本もあるため、おおよその広がり具合を示した図ではあるものの、ジョスカンの作品が、写本だけでもこれだけ広い範囲で筆写されているということは、理解できよう。

【2．印刷楽譜の誕生】

◆木版印刷

ヨーロッパで初めて活字印刷を行ったのは、言うまでもなく、ドイツのグーテンベルクによる「42 行聖書」で、1455 年のことであるが、楽譜が印刷されるようになるのは、15 世紀後半ごろのこと。ニュルンベルクやアウグスブルクを始めとするヨーロッパ各地で、木版

印刷による典礼用聖歌集が出版された。



〔スライド 5〕木版印刷の版木

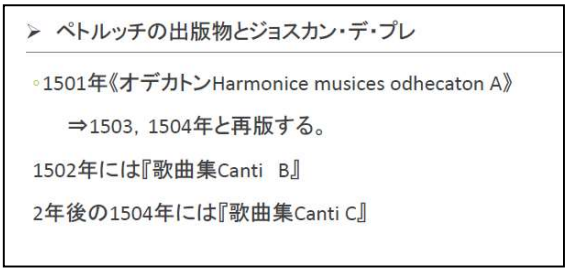
画像出典：*Music printing history* https://musicprintinghistory.org/#
(2021.5.10 閲覧)

しかし、楽譜を左右、逆向きに読みながら、譜線、音符、歌詞などすべてを正確に彫ることは、大変な技術と、楽譜に対する正確な知識を必要としていため、木版印刷による楽譜は、音楽理論書や典礼書の一部に掲載されているだけだった。

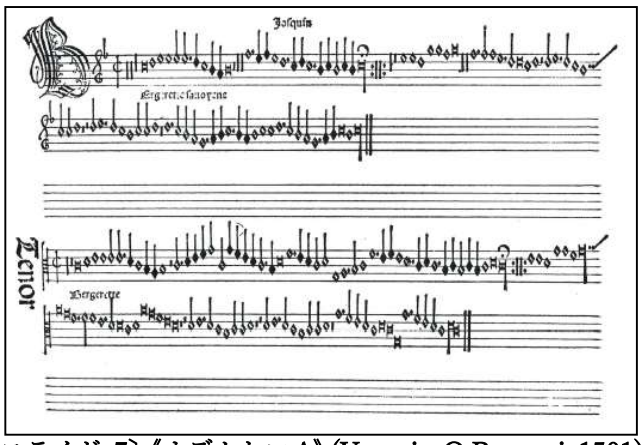
◆活字印刷の登場とオッタヴィアーノ・ペトルッチ

そのような中、ヴェネツィアで 1494 年にアルド・マヌッツィオ（1449/50-1515）が印刷業立ち上げを契機として、急速に出版活動が広まり、ついに楽譜集の印刷が、イタリアの印刷業者オッタヴィアーノ・ペトルッチ Ottaviano Petrucci (1466-1539)によって始められる。

ペトルッチは、イタリアのフォッソンブローネ出身で、1490 年頃にはヴェネツィアで印刷技術を学んだ後、1498 年 5 月 25 日には、ヴェネツィア政府から 20 年間の多声音楽出版販売の独占権を取得することによって楽譜を出版し始める。

◆ペトルッチの出版物とジョスカン・デ・プレ

〔スライド 6〕

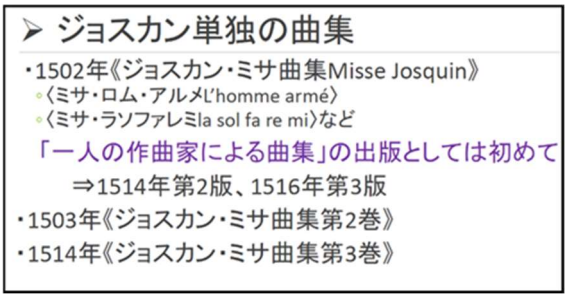
ペトルッチの印刷技術は、金属製の活字を用いた活版印刷術で、先に譜線だけを印刷し、その後で音符を重ね刷りするという方法だった。そのため時には微妙に音符の位置がずれることもあるが、ペトルッチの非常に優れた技術によって正確に重ね刷りがなされていた。



〔スライド 7〕《オデカトン A》(Venezia, O.Petrucci, 1501) fol.12v〈サヴォアの羊飼い娘 Bergerette savoyenne〉

ペトルッチが最初に手掛けたのは《オデカトン Harmonice musices odhecaton A》という、当時流行していた多声の世俗曲を集めた曲集で、1501 年に出版されている。フランドル楽派の多声シャンソンが 96 曲収められている。ジョスカンの作品が初めて印刷楽譜として出版されたのは、まさにこの《オデカトン》で、〈さようなら、私の愛する人たちよ Adieu mes amours〉や〈サヴォアの羊飼い娘 Bergerette savoyenne〉（スライド 7）など 8 曲が収められている。

◆ジョスカン単独の楽譜集出版



〔スライド 8〕

ペトルッチは、《オデカトン》の出版後まもなく、ジョスカン単独での曲集を出版している。第 1 巻の《ジョスカン・ミサ曲集》では、現在でもよく知られた《ミサ・ロム・アルメ》などが収められている。1505 年には《ジョスカン・ミサ曲集第 2 巻》を出版、ついで《ジョスカン・ミサ曲集第 3 巻》として、1514 年にフォッソンブローネで出版。どれも数年〜10 年後に第 2 版を重ねるほど、人気のある曲集であった。

◆4 冊の《モテット集》から見えてくるもの

1502年《モテット集Motetti A》
〈Ave Maria gratia plena〉
1503年《モテット集Motetti B》
〈O Domine Jesu Christe〉
1504年《モテット集Motetti C》
〈Ave Maria …benedicta tu〉
1505年《Motetti libro quarto》
〈Alma redemptoris〉

〔スライド 9〕4 冊のモテット集

ペトルッチは複数の作曲家のモテットを集めた《モテット集》を複数出版するが、その最初の 4 冊すべての冒頭に、ジョスカンのモテットを載せている。例えば 1502 年の《モテット集》では〈アヴェ・マリア Ave Maria〉を、翌 1503 年の《モテット集》では〈おお主よ、イエス・キリストよ O Domine Jesu Christe〉といったように。このことは、ジョスカンの名声が広まっていることを意味すると考えて不思議はない。

【3．楽譜出版の広まり ：ジョスカンの没後】

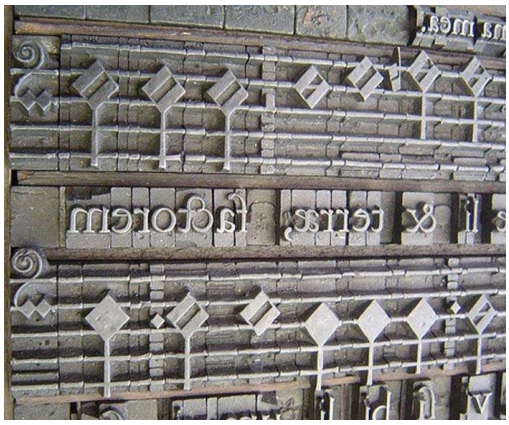
◆ ピエール・アテニャンPierre Attaingnant (1513/14–1551/52)
パリの印刷業者
1528年《新シャンソン集Chansons nouvelles》を出版。
1537年 「国王の楽譜印刷・出版家imprimeur et libraire du Roy en musique」の称号を得る。

〔スライド 10〕

◆パリの出版楽譜

フランスで楽譜出版が始まったのは 1528 年で、ヴェネツィアで出版活動を開始していたペトルッチの二重印刷法の欠点を改良すべく、開発されたのが「同時印刷法」だった。二重印刷術の欠点を改良したのが、一つの音符に対して譜線も組で活字を作成するという「同時印刷法」で、このような同時印刷法を用いて、パリで最初に楽譜を出版したのがピエール・アテニャン（1494 頃-1551/52）である。スライド 11、12 は同時印刷法の活字とそれを組み合わせたもの。

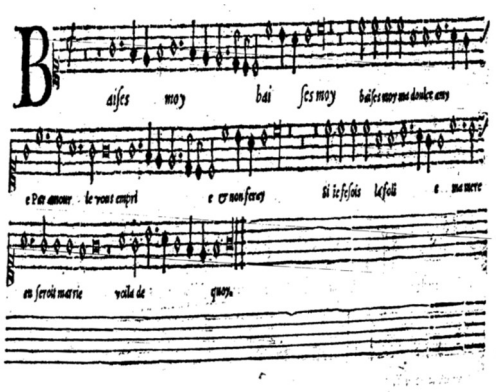
〔スライド 11〕



〔スライド 12〕

※スライド 11、12 とも *Music printing history* (https://musicprintinghistory.org/making-music-type/, https://musicprintinghistory.org/music-moveable-type/) より引用 (2021.5.10 閲覧)

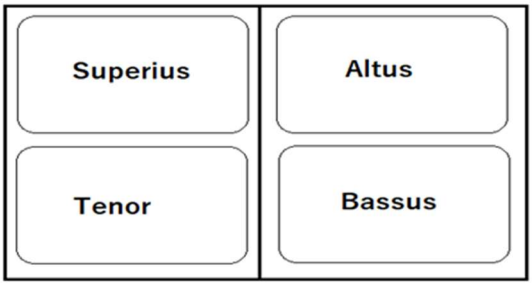
◆ジョスカンの楽譜出版

アテニャンの最初の印刷楽譜出版は 1528 年《シャンソン曲集》で、1549 年にはジョスカン単独の《シャンソン曲集》を出版する。ペトルッチも何度が出版している〈口づけして Baises moy〉(スライド 13)など 30 曲が収められており、おそらくフランスでジョスカンの作品が印刷楽譜の形で紹介された最初の実例と言われている。

〔スライド 13〕
《ジョスカン・シャンソン曲集 Trente sixiesme livre contenant XXX. Chansons tres musicales,……Le tout de la composition de feu Iosquin des prez》
(Paris, P.Attaingnant, 1549)

【4． 楽譜の形状の変化】

◆写本の場合

印刷楽譜の登場は、楽譜のレイアウトそのものにも変化を与えた。写本に記譜される場合、見開き両ページに全声部が書かれている。これを「クワイヤブック」と呼び、現在の楽譜のようにスコア状に記されているのではなく、スペリウス（最上声部）からバスまで、それぞれのパートごとに分けて、左側のページにスペリウスとテノール、右側のページにアルトとバスというように配置されている（スライド 14)。



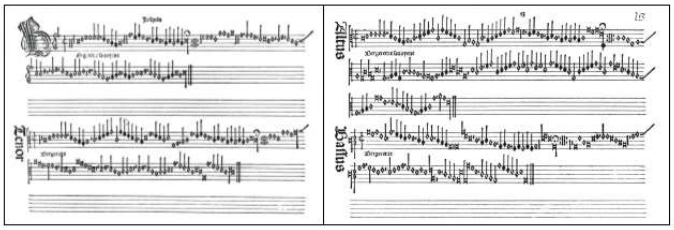
〔スライド 14〕クワイヤブックのレイアウト

たった一つしかない楽譜を皆で一緒に見ながら歌うというこの形態(スライド 15)は、修道院や教会内では、ずっと続いていた伝統である。歌手が非常に近い場所に立って歌うことによって、お互いの息遣いや出のタイミングなどが伝わってくることから、アンサンブルしやすい形態と考えられる。

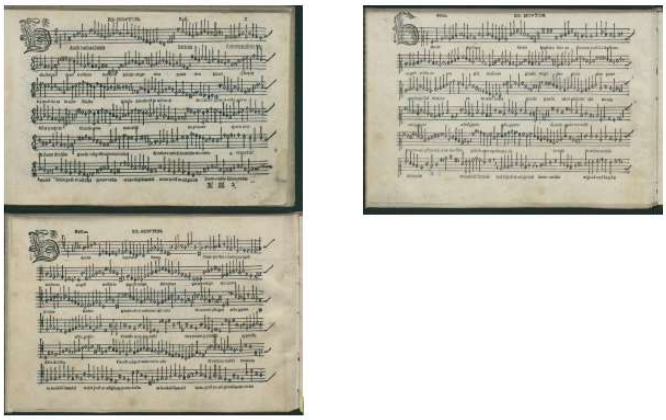
〔スライド 15〕
16 世紀初頭に描かれた聖歌隊員達の演奏風景
画像出典：
https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b8539706t/f60.planchecontact
(2021.5.15 閲覧)

◆クワイヤブックからパートブックへ

ペトルッチが最初に出版した《オデカトン A》も、〔スライド 16〕から明らかなように、クワイヤブックのレイアウトを踏襲しているが、この楽譜の大きさは 1 ページが 17×24 ㎝とだいぶ小さく、見開きにしたところで、かなり見にくい大きさである。



〔スライド 16〕《オデカトン A》
〈サヴォアの羊飼い娘 Bergerette savoyenne〉fol.12v

そのためであろうか。1504 年に出版されたモテット集では、各声部が分冊で印刷されている。これらのパートブックは、一人一人が手に取って読むためというよりは、小さく手軽いため、持ち運びが容易であったことから、別の場所へ提供し作品を伝承したり、あるいは保存のために作成されたと言われている。

〔スライド 17〕
《モテット集 Motetti, C》(Venezia, O. Petrucci, 1504)より
〈Gaude Barbara beata〉

【5．作品の真偽問題】

〈深き淵よりDe profundis〉
1520年ペトレイウスがアウグスブルクで出版
《選曲集Liber selectarum cantionum》
1539年　同じくペトレイウスがニュルンベルクで出版
《詩編集第2巻liber secundum psalmorum》

〔スライド 18〕「ジョスカン作」とされた
他の作曲家による作品例

ジョスカンの没後、ジョスカンの名前だけが借用され、他人の作品に「ジョスカン作」と表記されてしまう例が増えてくる。影響が限定的な写本での名前の借用や取り違えとは異なり、印刷譜の場合、一度に出版される数が多いため、その経済効果は大きく、販売戦略だった可能性も考えられよう。しかし、この戦略が有効であったことは、当時の社会において、「作曲家」という職業が、聖歌隊やカントールといった職種とは切り離された、創作活動を行う職種として考えられていたことを示唆する。

【結語】

ここまで、ジョスカン・デ・プレの作品が写本および出版楽譜を通して、どのように受容されていったかを見てきた。1500 年代初頭の北イタリアでは、音楽家たちの身分表記から、「作曲家」という仕事が広く認識されるようになったのではないかと言われているが、ジョスカンの作品の受容家庭から、1502 年にその北イタリアのヴェネツィアで、ペトルッチが史上初の作曲家単独の曲集《ジョスカン・ミサ曲集》を出版しているという事、そしてそれ以来、楽譜出版という活動を通し、「作曲家、ジョスカン・デ・プレ」という認識ができつつあったことが見て取れる。そしてその裏側で、いくつもの贋作が出版譜の中にばらまかれていたという現象は、当時の社会の中で、作品の評価ではなく、「作曲家の名前で購入する」という選択が働いていたこと、そして限られた特権階級だけではなく、幅広い層の人々が「作曲家」という職業を意識し始めたことを意味する。印刷楽譜の誕生とともに、「作曲家」という職業が、それまでとは異なった様相で現れてきたことが読み取れるであろう。

（IAML 日本支部事務局長）

第 69 回例会傍聴記

野川夢美

新型コロナウィルスの感染拡大の影響により 2 度目のオンライン開催となった第 69 回 IAML 日本支部例会では、2021 年に注目を集める 2 つのテーマで講演が行われた。1 つは IAML 日本支部事務局長を務める宮崎晴代氏による講演「ジョスカン・デ・プレ没後 500 年記念；写本から印刷楽譜へ―ジョスカン・デ・プレの楽譜史料をめぐって―」、もう 1 つは音楽文献目録委員会事務局長を務める大河内文恵氏による「『音楽文献目録』から『音楽文献目録オンライン』へ：オンライン化で見えてきたもの」である。当日の参加人数は延べ 38 名(講師を除く)、うち会員は 20 名、非会員は 18 名であった。以下、簡単に講演の内容と感想とを記載する。

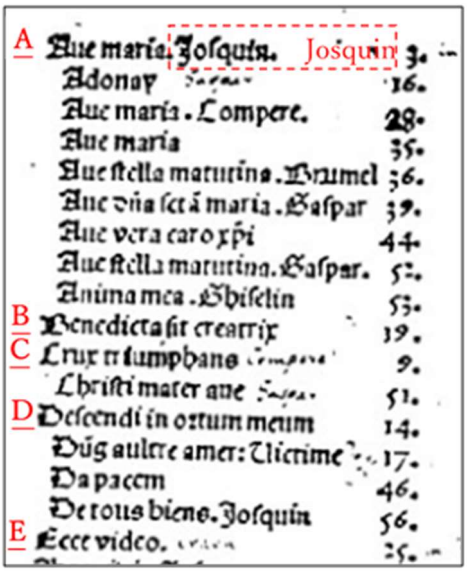
ジョスカン・デ・プレ Josquin des Prez は盛期ルネサンスを代表するフランドル楽派の一人であり、ミサ曲やモテットの作品において各声部が同じモチーフを繰り返し模倣する〈通模倣様式〉を確立したことで知られる。宮崎氏による講演は、このジョスカン・デ・プレの生前および没後すぐに出版された印刷楽譜に焦点を当て、ルネサンスに至るまでの記譜法と楽譜の形態の変化という時代背景を追いながら、印刷楽譜が音楽史に及ぼした影響を探るものであった。

講演では最初に、ネウマ譜に始まり印刷譜に至るまでの楽譜の歴史が丁寧に説明された。神聖ローマ皇帝シャルルマーニュ(在位 800-814)による修道院付属学校や聖歌隊学校の拡充を背景に、聖歌を教えるのには従来の伝承や記憶に頼る方法では十分ではない、という実践的な要求から、9 世紀頃に最初の楽譜〈ネウマ譜〉が誕生した。このネウマ譜は地域によって多様な形状で記された楽譜であり、また音価や音高を明確に示さなかったことから、あくまで旋律を知っている者の補助的手段にすぎなかったことが分かる。やがて譜線が書き込まれることにより音高が明確になり、さらに 12 世紀のリズム・モード記譜法、13 世紀のフランコ式記譜法、14 世紀のアルス・ノヴァ、トレチェント記譜法を経て、15 世紀ルネサンスには白符計量記譜法へと至り、音高だけでなく音価も明示することの出来る記譜法が確立された。宮崎氏は、このようにヨーロッパで共通して読まれ得る体系的な記譜法が確立されたことも、ジョスカンによる作品の広範な伝播には必要不可欠な要素であったと説明した。

一方で楽譜の形態にも大きな変革が起こった。ベネツィア政府より多声音楽の出版販売の独占権を得ていた印刷業者オッタヴィアーノ・ペトルッチ Ottaviano Petrucci(1466-1539)により 1501 年、最初の印刷楽譜『オデカトン Harmonice musices odhecaton A』が出版されたのである。印刷楽譜の登場である。

さて、ここからが講演の本題となる。まず、この『オデカトン』にはジョスカンの作品が 8 曲収められていた。そして翌年 1502 年には、ジョスカンによるミサ曲を収めた『ジョスカン・ミサ曲集 Misse Josquin』が出版された。これは単独の作曲家による初の印刷楽譜による曲集であり、1503 年には第 2 巻、1514 年には第 3 巻が出版され再版も行われていることから、ジョスカンの当時の人気を示す根拠となることが説明された。また、次に提示されたのはペトルッチが 1502 年から 1505 年にかけて出版した 4 つの『モテット集 Motetti』である。各巻の冒頭に置かれたのはいずれもジョスカンによるモテットであり、目次の冒頭にジョスカンの名が記されていることから、出版当時、既にジョスカンの名声は広く行き渡り、楽譜にジョスカンの名を記載し作品を収めることによって販売促進に繋がったのではないかという推測が述べられた。

講演では実際の史料は示されなかったので、後でフランス国立図書館の電子図書館「Gallica」で実際の目次をみてみると、確かにジョスカンの《アヴェ・マリア》が冒頭に置かれている(図参照)。目次の順番は収録された曲のインチピットのアルファベット順で、インチピットの後に作曲者名が記載されている。図は『モテット集 A』の目次であるが、厳密なアルファベット順であれば冒頭に置かれるはずの《Adonay》が 2 段目に置かれていることから、あくまでインチピットの頭文字だけでまとめられていること、頭文字によるグループのなかの順番はペトルッチの思惑により配置されていることが推測され、非常に興味深い。



https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k59226d/（2021.7.26 閲覧）より

そして宮崎氏は最後に、今谷和徳氏が著作『ルネサンスの音楽家たち』(東京書籍, 1993 年, p.176)のなかで当時の史料により「15 世紀の終わりあたりから、少なくとも北イタリアでは、「作曲家」という仕事が広く認識されるようになったのでは」ないかという仮説を立てていることに言及し、今回提示されたジョスカンの印刷楽譜はまさに彼が北イタリアのフェラーラ公に仕えていた際に出版されていることから、ジョスカン・デ・プレが著名な「作曲家」として認識されていた事実のひとつの根拠となるであろうと考察した。さらに、ジョスカンの没後にも意図的か否かは別としてジョスカンの名を付けた作品を含む多くの楽譜が出版され続けたことから、印刷楽

譜の誕生と共に「作曲家」の名前が一種の商品価値になり得るという新しい要素が生まれたのかもしれないという可能性を提示し、講演が締めくくられた。

現在となってはルネサンスの巨匠として当然のように名前をあげられるジョスカン・デ・プレであるが、その名前と作品の伝搬には、ヨーロッパ共通で認識され得る記譜法の確立と印刷楽譜の誕生という複数の歴史的要素が背景にあったことが丁寧に解説され、音楽史に詳しくない参加者にとっては大変わかりやすく、また音楽史に詳しい参加者には新しい視点を提示する大変意義深い講演であったように思う。講演後には複数の参加者から質問や意見があがり闊達なやり取りが行われ、今後の研究の可能性や新たな視点が提示されたのも印象的であった。異なる専門分野の参加者が集まる IAML 日本支部例会ならではの醍醐味であると感じた。遠く離れたドイツ、ヴュルツブルクの参加者からも質問が寄せられ、オンラインによる例会ならではの利点も知ることのできる機会となった。

続いて大河内文恵氏による講演である。2021 年 4 月、音楽文献目録委員会は「音楽文献目録オンライン」を公開しており、本講演ではまだ公開されて間もないこの「音楽文献目録オンライン」について、そのコンテンツの状況や今後の予定等を含め事務局長を務める大河内氏よりお話をいただいた。

まずオンライン版の説明に先立って、音楽文献目録委員会設立に始まるこれまでの歴史が振り返られた。1966 年、国際音楽学会(IMS)と国際音楽資料情報協会(IAML)の共同事業として国際音楽文献目録(RILM)が設立された翌年の 1967 年、RILM 国内委員会という名称で設立されたのが音楽文献目録委員会の始まりである。当初は本部に『国際音楽文献要旨目録 RILM Abstracts』のデータを送付することを目的としていたが、1973 年には国内向けに『日本音楽文献要旨目録』を発刊、その後名称を『音楽文献目録』に変更し 2019 年まで刊行された。日本において毎年出版あるいは発表される音楽に関する書籍や論文の情報を網羅した『音楽文献目録』は、音楽を研究する者にとって極めて重要なツールであることは言うまでもない。特に全国の大学で提出される修士論文が含まれている点で、この『音楽文献目録』は国内での先行研究調査に欠かすことの出来ないツールとなっている。

ところで第 48 巻より冊子からオンラインへと切り替えられたことは、それまで冊子体の『音楽文献目録』を購入し使用していたユーザーにとっては少々唐突に感じられたかもしれない。これについて大河内氏より事情の丁寧な説明があった。当初オンラインへの移行は第 49 巻から行う予定であったにも関わらず 2020 年に入ってすぐに新型コロナの感染が世界的に拡大した影響により第 48 巻の冊子刊行を実現することが叶わず、やむを得ない状況の中で前倒しにてオンラインへの移行が実施されたとのことである。急なオンライン化への対応がいかに大変であったかは、説明を聴く限りでも十分に伝わってきた。

以上の説明に続き、現在 Web 上で公開されている「音楽文献目録オンライン」を使って検索のデモンストレーションが行われた。ちょうど過去にカード目録が OPAC へと変化したのと同様に、冊子体では実現が難しかった副主題や件名が検索キーワードに追加されることにより、よりユーザーのニーズに適した検索結果が得られるようになることがデモと解説により理解できた。また現状のコンテンツは第 48 巻に収められる予定だった情報のみであるものの、今後は新しい情報と共に冊子で刊行された過去の情報も少しずつ遡及入力が行われ、徐々に増えていくとのことである。講演の最後には、音楽文献目録委員会の委員長を務める伊東辰彦氏からも補足の説明をいただいた。

しばらくは冊子体とオンライン版との併用が続くということであるが、遡及が進みオンライン版に統一された暁には、研究に従事するユーザーの利便性が格段に向上するのは間違いない。しかしながら、冊子体で刊行されたものの遡及入力の難しさについて、大河内氏による説明を聴き、その道のりの険しさを参加者は皆理解できたことと思う。IAML 日本支部は母体団体として、「音楽文献目録オンライン」のコンテンツの充実、機能向上のために何が出来るのか、何をすべきなのか、改めて考えさせられる講演であった。

（桐朋学園大学附属図書館）

国際音楽資料情報協会（IAML）日本支部

2021 年総会議事録

日時：2021 年 6 月 5 日（土）13:00～14:00
会場：オンライン（Zoom）
出席者（22）：荒川恒子、飯山かおり、石田康博、伊東辰彦、伊藤真理、加藤信哉、金井喜一郎、関根敏子、田島克実、田中伸明、藤堂雍子、鳥海恵司、野川夢美、平岩寧、宮崎晴代、美山良夫、柳澤健太郎、山本宗由、株式会社トッカータ、東京音楽大学附属図書館、桐朋学園大学附属図書館。
委任状提出（16）：植田栄子、加納マリ、工藤哲朗、栗林あかね、佐々木勉、高橋美都、友利修、中西紗織、星野宏美、正木光江、大和紘子、アカデミア・ミュージック（株）、昭和音楽大学附属図書館、同朋大学・名古屋音楽大学図書館、民音音楽博物館音楽ライブラリー、武蔵野音楽大学図書館（五十音順）
会員総数（2021 年 5 月末現在）：58（個人会員 40、団体会員 18）

I　開会挨拶　　支部長　伊藤真理
岸本宏子会員、村井範子会員の逝去を悼み黙祷をささげた。

II　議長選出　　荒川恒子氏

III　総会成立の確認
出席者 22 名、委任状提出 16 名、合計 38 名。
会員総数 58 の過半数に達し、総会成立。

IV　報告
１．2020 年活動報告（資料①）

２．2020 年会計決算報告並びに会計監査報告(資料②)

３．会員の異動（2021.4.6 現在）（退会：7 人、1 団体）
井上公子、岸本宏子（逝去）、佐古純子、澤田宏美、長谷川由美子、樋口美緒、村井範子（逝去）、フェリス女学院大学附属図書館。

４．その他
国際大会：今年度はオンライン開催、代表者は支部長。伊東辰彦前支部長が発表予定。

V　審議
１．2021 年活動計画（資料①）
・ニューズレターの追加計画として、村井範子会員の追悼号も予定している。
・今年度役員会で、会員専用ページの立ち上げも検討し始める。

【承認】

２．2021 年予算案（資料③）【承認】

３．その他
(1)40 周年記念誌進捗状況（資料④）
Fontes Artis Musicae vol.68, no.3 の日本支部特集号へ記事 5 本を寄稿。英文校正費用を支部予算より拠出。

【承認】

(2)日本支部パンフレット作成（資料④）【承認】

(3) IAML 日本支部例会申し合わせ（資料⑤）
今後もオンライン例会が続くことを想定し、例会に関しての申し合わせを作成

【承認】

VI　その他
・岸本宏子会員、村井範子会員の写真提供についてのお願い。
・新入会員、田中伸明氏の紹介。

VII　議長解任

VIII　閉会

資料①

2020 年活動報告および 2021 年活動計画

	2020 年活動報告	2021年活動計画(中間報告及び予定)
国際大会	プラハ国際大会中止 2020 年 7 月 20 日(月)～24 日(金) IAML Online 2020 開催 伊藤真理、荒川恒子、工藤哲朗 代表出席:伊藤真理	2021 年 7 月 26 日(月)～30(金) オンライン会議
総会	2020 年 7 月 9 日付書面にて実施 (新型コロナウィルス感染予防のため、出欠確認や委任状については Googleform を利用)	2021 年 6 月 5 日(土)オンライン(zoom)にて開催予定。
役員会	2020 年 2 月 15 日(土) (株式会社トッカータ) 2020 年 5 月 3 日(日) 電子メール審議 2020 年 8 月 30 日(日) オンライン会議 2020 年 10 月 17 日(土) オンライン会議	2021 年 1 月 27 日(水) オンライン会議 2021 年 2 月 7 日(日) オンライン会議 2021 年 3 月 24 日(水) オンライン会議
支部例会・集会	第 68 回例会 オンライン開催 テーマ:「音楽資料目録データの作成から見た音楽資料目録と音楽図書館」 講師:鳥海恵司氏((株)トッカータ)(会員) 内容:鳥海氏の「第 22 回図書館サポートフォーラム賞」受賞を機に、半世紀に及ぶ音楽資料の MARC レコード及び書誌・典拠データベースの構築とシステムの標準化から見た、わが国の音楽資料目録と音楽図書館に関して、その推移と現状及び課題についてお話しいただいた。	第 69 回例会 オンライン開催 【講演①】 ジョスカン・デ・プレ没後 500 年記念 「写本から印刷楽譜へ —ジョスカン・デ・プレの楽譜史料をめぐって—」 講師:宮崎晴代氏(IAML 日本支部事務局長) 【講演②】 「音楽文献目録」から「音楽文献目録オンライン」へ:オンライン化で見えてきたもの」 講師:大河内文恵氏(音楽文献目録委員会事務局長)
ニューズレター	第 68 号 2020 年 1 月 31 日 特集 第 67 回例会報告 第 69 号 2021 年 1 月 12 日 2020 年総会報告	第 70 号 2021 年 6 月予定 岸本宏子先生追悼特集 第 71 号 2021 年秋に刊行予定 第 72 号 2021 年年内の刊行を予定
ホームページ・SNS 更新	ニューズレター掲載 第 68 号(1/31) 会員の訃報:岸本宏子先生 (11/8) フェイスブック「音楽図書館」更新約 102 件 (2018 年 6 月から 2020 年 6 月まで、更新頻度約 4 件/月)	ニューズレター掲載 第 69 号(1/12) NL 案内(1/12) 第 68 回例会案内(1/21) 会員の訃報:村井範子先生 (3/20)
選挙	日本支部役員選挙 2020 実施 選挙期間 2020 年 3 月 27 日~5 月 15 日	
その他	本部への会費送金 (4/3)	本部への会費送金 330,374 円 (5/12) 40 周年記念誌(*Fontes Artis Musicae* vol. 68, no.3, 2021) 日本支部特集号とする

資料②

IAML2020年決算

2020年12月31日

費　　目	2020年 予算	2020年 決算	予算決算差額	備考
前年繰越：				
現金	3,181	3,181	0	
ゆうちょ	264,195	264,195	0	
（内会員会議参加補助基金）				¥127,000
三菱UFJ銀行	368,805	368,805	0	
（小　計）　【a】	636,181	636,181	0	
収入：				
未収会費				
2019年以前				
個人	18,000	6,000	12,000	
団体	14,000	14,000	0	
会費2020年				
個人	115,000	84,000	31,000	
団体	56,000	56,000	0	
利息	1	2	-1	
会費2021年				
個人	270,000	132,000	138,000	個人46→40 予算は45(仮)で算出
団体	280,000	224,000	56,000	団体19→18
雑収入	0	0	0	
（小　計）	753,001	516,002	236,999	
会員会議参加補助基金	0	0	0	
会員サポート・支部活動支援基金	50,000	46,000	4,000	9名1団体より
（収入小計）　【b】	803,001	562,002	240,999	
収入総額　【c】＝【a】＋【b】	1,439,182	1,198,183	240,999	
支出：				
本部宛会費送金　【d】	326,703	326,703	0	€2676.80(1€=122.05円)
予備費　【e】	10,000	7,392	2,608	封筒1,000部の費用として
経常経費：				
RILM分担金	80,000	80,000	0	
大会代表派遣費	100,000	100,000	0	2019年大会派遣費として
ニューズ・レター	5,000	0	5,000	
会議費、例会費	10,000	0	10,000	
交通費	100,000	5,350	94,650	
通信費	70,000	35,586	34,414	
消耗品費	10,000	0	10,000	
雑費	16,000	14,882	1,118	
アルバイト代	10,000	0	10,000	
HP運営費	25,000	25,080	-80	
（経常経費小計）　【f】	426,000	260,898	165,102	
会員会議参加補助基金　【g】	100,000	0	100,000	
支出総額 【h】＝【d】＋【e】＋【f】＋【g】	862,703	594,993	267,710	
次年度繰越　【i】＝【c】-【h】	576,479	603,190	-26,711	

次年度繰越金	
現金	0
郵便局	274,594
（内会員会議参加補助基金）	（¥127,000）
銀行	328,596
総額	603,190

IAML日本支部の2020年会計明細書を精査した結果、適切に処理、記載されていると認めます。

2021年4月30日

IAML日本支部会計監査

平岩 [illegible]

資料③

IAML2021年予算案

費　　目	2021年予算	2020年決算	予算決算差額	備考
前年度繰越：	2020年繰り越し	2019年繰り越し		
現金	0	3,181	-3,181	
ゆうちょ銀行	274,594	264,195	-10,399	
（内　会員会議参加補助基金）				¥127,000
三菱UFJ銀行	328,596	368,805	-40,209	
（小　計）【a】	603,190	636,181	-32,991	
収入：				
■未収会費				
2020年以前				
個人	24,000	90,000	-66,000	
団体	0	70,000	-70,000	
会費2021年				
個人	108,000	132,000	-24,000	個人 18名(40名中)
団体	28,000	224,000	-196,000	団体 2団体(18団体中)
利息	2	2	0	
■会費2022年				
個人	240,000	0	240,000	個人 40名
団体	252,000	0	252,000	団体 18団体
雑収入	0		0	
（小　計）	652,002	516,002	136,000	
会員会議参加補助基金	0	0	0	
会員サポート・支部活動支援基金	46,000	46,000	0	
（収入小計）【b】	698,002	562,002	136,000	
収入総額【c】=【a】+【b】	1,301,192	1,198,183	103,009	
支出：				
本部宛会費送金　【d】	330,374	326,703	3,671	2473.60EUR×133.56円
予備費　【e】	10,000	7,392	2,608	
経常経費：				
RILM分担金	80,000	80,000	0	
大会代表派遣費	0	100,000	-100,000	大会はオンライン開催のため
ニューズ・レター	28,000	0	28,000	原稿料、印刷費として
会議費、例会費	15,000	0	15,000	講師料として
交通費	10,000	5,350	4,650	役員会等オンライン実施
通信費	40,000	35,586	4,414	
消耗品費	2,000	0	2,000	
雑費	15,000	14,882	118	
アルバイト代	0	0	0	
HP運営費	25,080	25,080	0	
（経常経費小計）　【f】	215,080	260,898	-45,818	
会員会議参加補助基金【g】	0	0	0	大会はオンライン開催のため
IAML日本支部40周年記念事業費　【h】	50,000	0	50,000	FAM40周年記念号の英語原稿校正料として
支出総額【i】=【d】+【e】+【f】+【g】+【h】	605,454	594,993	10,461	
次年度繰越【j】=【c】-【i】	695,738	603,190	-92,548	

資料④

○ **支部 40 周年記念誌進捗状況**

記念誌刊行については 2019 年度総会にて了解済みであるが，詳細について刊行スケジュールとの兼ね合いから，下記の通り進行中である。

刊行：*Fontes Artis Musicae* vol. 68, no.3, 2021 を日本支部特集号とする
内容：
・How Can We Work with Our Music Communities?：on the Occasion of IAML Japanese Branch's 40th Anniversary (伊藤真理)
・Recent Developments in the Japanese Branch of Répertoire International de Littérature Musicale: Its Task and Future（伊東辰彦）
・The Old Cummings Collection at the Nanki Music Library（佐々木勉）
・Music Libraries in Japan during 1960s: the Time for a Seed to Germinate?（伊藤真理）
・The Acceptance of Studies on European Medieval and Renaissance Music in Japan（宮崎晴代）
経費：英文校正料の執行（6 万円程度）

○ **日本支部パンフレット作成**

主旨：
これまでに日本音楽学会，日本図書館協議会，日本図書館情報学会等関連団体への広報活動の必要性が指摘されてきたこと，近年団体会員（音楽図書館）の退会が出てきたことをふまえ，身近な関係者にも IAML の意義を改めて説明しておく必要があると考える。そこで，上記団体，音楽図書館協議会等に対し， IAML および当支部についての簡潔な説明を書いたパンフレットを作成，公開・配布する。
内容：
IAML 本部パンフレットを参考にして，当支部潜在会員にアピールできるような内容を検討
IAML 及び当支部の沿革，意義・セールスポイント，主な活動内容
工程：
秋の学会，研究会シーズンに間に合うように完成。ただし今年度はオンラインでの会議実施が多いことが予想されるため，配布方法については継続して検討
印刷の場合は，外注せず自前で行う（A4 サイズ三つ折り，厚手の紙にレザープリンターで印刷）
各団体事務局宛に送付し，配布を依頼（事前にリエゾンを通じて協力依頼）。
配布時の添え状に，歴代支部長のご協力を得ることを検討

パンフレットのイメージ

外側

[表紙] IAML ロゴ	[裏] 連絡先 QR コード	[中] 支部活 動案内 等

内側

沿革	IAMLの社会的 意義 会員への貢献等	

資料⑤

2021 年 6 月 5 日
IAML 日本支部

IAML 日本支部例会について（申し合わせ）（案）

（趣旨）
IAML 日本支部（以下「支部」という）は、音楽図書館や音楽資料情報に関する最近の 動向や会員の調査研究・活動を紹介し、意見交換を行うために例会を開催する。
（企画）
例会の企画は役員会が行う。
（回数）
例会は原則として年２回開催し、そのうち１回は支部総会に合わせて開催する。
（開催方法）
例会は対面またはオンラインで開催する。
（参加）
例会は原則として支部会員以外に公開し、その参加費は無料とする。
（謝金）
例会の発表者が支部会員以外の者の場合、所定の謝金を支払う。ただし、本人が辞退した場合はこの限りではない。
（資料及び記録の公開）
例会の発表者の許諾が得られた場合、例会の配付資料及び講演録画を公開することができる。公開の範囲、期間、著作権の扱いについては役員会が発表者と協議する。
（附則）
この申し合わせは 2021 年 6 月 5 日から施行する。

事務局だより

〇日本支部の次回例会について

日本支部の次回（第 70 回）の例会は、以下の通り開催の予定です。

・日時：2021 年 10 月 30 日（土） 午後
・開催方法：オンライン（Zoom）

内容の詳細等は、決定次第支部ウェブサイトなどで告知の予定です。

〇"Recent Publications in Music"が 4,000 件達成

5 月 3 日、IAML 本部が"Recent Publications in Music"に収録された文献の書誌情報が 4,000 件に達したことをウェブサイトで公表しました。
"Recent Publications in Music"は、参考図書や研究書を中心として、新たに出版された音楽に関する主要な文献の情報を 30 か国以上から集めたデータベースで、4,000 件目に登録されたのは Antonio C. Cuyler "Access, diversity, equity, and inclusion in cultural organizations: insights from the careers of executive opera managers of color in the U.S." だったとのことです。
https://www.iaml.info/news/4000th-record-recent-publications-music

〇IAML による公開書簡への署名

7 月 7 日、IAML の Stanislaw Hrabia 会長は、IAML 本部ウェブサイトへの投稿で公開書簡” Claiming a front row seat for music”の署名団体に IAML が名を連ねたことを明らかにしました。

この書簡は政策担当者に音楽部門の芸術的、社会的、経済的価値への十分な認識を求め、政策的意思決定においてこの書簡の内容を実行するよう求めるもので、IAML を含む 76 の国際団体、欧州及び各国の音楽団体が連名で署名し、欧州委員会や欧州議会議員、各国政府に送付されるとのことです。

https://www.iaml.info/news/open-letter-claiming-front-row-seat-place-music-society

○国立国会図書館が調べ方案内を新規公開

国立国会図書館の調べ物支援サイト「リサーチ・ナビ」で、音楽に関する調べ方案内 3 つが新たに公開されました。

（3 月 30 日公開）
・戦前のレコード会社販売目録 「コロムビア」
https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-1198.php
・戦前のレコード会社販売目録「ビクター」
https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-1196.php

（6 月 28 日公開）
・邦楽（日本の伝統音楽・民俗音楽）の調べ方
https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-1203.php

○「東京藝術大学附属図書館デジタルコレクション」の公開

2021 年 4 月、「東京藝術大学附属図書館デジタルコレクション」が公開されました。

同コレクションでは東京芸術大学附属図書館が所蔵する和漢書、楽譜、文書・記録類、写真等が公開されています。コンテンツは今後も追加予定とのことです。
https://geidailib.tumblr.com/post/647230667309072384/
※「東京藝術大学附属図書館デジタルコレクション」：
https://jmapps.ne.jp/geidailib/

○舩山隆演奏会プログラムコレクションの公開

4 月 23 日、東京藝術大学附属図書館が「舩山隆演奏会プログラムコレクション」を公開しました。このコレクションは、同大名誉教授の舩山隆氏が 1950 年代から現代までの半世紀以上にわたり収集した約 1,000 点の公演プログラムから成ります（寄贈は現在も継続中）。個々の資料は「東京藝術大学附属図書館デジタルコレクション」で検索が可能です。
https://geidailib.tumblr.com/post/649231762651774976/

○ホロヴィッツ関連資料の受入

7 月 21 日、東京藝術大学附属図書館が石井義興氏からウラジミール・ホロヴィッツ関連資料一式の寄贈を受けたことを公表しました。コレクションの整理は今後順次行われる予定とのことです。
https://geidailib.tumblr.com/post/657304262061277184/

○特別企画展「唱歌！西洋音楽がやって来た―明治の音楽と社会―」

7 月 17 日から 9 月 5 日まで、兵庫県立歴史博物館で特別企画展「唱歌！西洋音楽がやって来た―明治の音楽と社会―」が行われます。展示では同館所蔵の児童文化資料コレクション「入江コレクション」を中心に、「梅園唱歌図」や「無師独奏　紙腔琴」といった初公開資料が多数紹介されるとのことです。
https://rekihaku.pref.hyogo.lg.jp/exhibition/9158/

■編集後記■

本号では支部総会報告に加え、2 回の例会の概要報告および傍聴記を掲載いたしました。ご多忙の中、ご執筆くださった 4 名の方々には御礼を申し上げる次第です。

なお、次号では昨年惜しくも逝去された村井範子先生の追悼特集を予定しております。（工藤）

Newsletter - 国際音楽資料情報協会日本支部
第 71 号
（2021 年 8 月 23 日発行）

国際音楽資料情報協会（IAML）日本支部
〒480-1197　愛知県長久手市片平 2-9
愛知淑徳大学人間情報学部伊藤真理研究室内
（担当：工藤）
http://www.iaml.jp